



改訂：2014/12/28

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第 68 回 WFP フェアリー作品展 (再掲)
- ・ 第 84 回 推理将棋出題
- ・ 第 85 回 推理将棋出題
- ・ 2015 年年賀詰作品展

結果発表

- ・ 第 67 回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第 83 回 推理将棋出題
- ・ Fairy of the Forest #41
- ・ くるくる作品展 1

読み物

- ・ 年賀算 (神無太郎)
- ・ 佐藤さんからのメール

第78号



2014/12

はじめに



師走

上の写真は仕事で行った新居浜の沖にある新居大島の港から臨む石鎚連峰です。新居大島はフェリーで15分、運賃は片道60円とても近い島です。しかし便は1時間に1本しかなく、島で仕事を少しだけでも結局3時間は時間を取られてしまう効率の悪さですが、ここだけ時間のスピードが遅いのではと錯覚するような感じの場所で、それはそれで心地よい感じでした。驚が漁船の舳先に止まり海を見つめる姿(写真は取れませんでした)とその背後に臨む雪化粧の山々。師走の忙しい中で一時の清涼剤のようでした。

それにしてもフェリーと入力しようとして何度もフェアリーとキーボードを叩いてしまうのは一種の職業(?)病でしょうか・・・(笑)

今来ている寒波は凄まじいものでいろいろな所で被害も出ているようですね。今年は暖冬と聞いていたのにどうなっているのでしょうか？

さて今年もあと10日となりました。あっという間に1年が過ぎてしまった感じです。今月号はちょっと早い2015年年賀詰作品展を開催しています。3題と少なめではありますが(いつも通りとも言う)が、年末年始に是非チャレンジしてみてください。きっと良い年を迎えることが出来ることでしょう。もちろん解答出すのもお忘れなく。

それでは良いお年を～～

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第78号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

第68回WFP作品展(再掲)及び

67-8訂正再出題

担当：神無七郎

今月は半期末のため新規出題はお休みし、第68回WFP作品展の出題稿を再度掲載します。また、67-8の出題図が手数誤記のため不詰となっていました。作者及び解答者の皆様に深くお詫びするとともに、改めて解答募集を行いますので、宜しく解答をお寄せください。

〔67-8再出題への補足説明〕(再掲)

67-8はPWCと中立駒の組み合わせ。PWCは「駒取り」が「位置交換」に変更されるルールなので、中立駒が「現手番側の駒を取れない」という規則をPWCに適用すると「現手番の駒と位置の交換ができない」という規則へ再解釈されることとなります。ナイトライダーが使われていて厄介ですが、これ1枚だけでは詰められないことや、受方持駒制限により合駒がないことを考慮すれば、詰上り型も見えてくると思います。

〔第68回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第68回の出題は全10題。解答募集期間が長いのでできるだけ多くの正解を狙ってください。

68-1と68-2は前回に続き、上谷直希氏の短編協力詰。フェアリーの原点に立ち返るような解答者に優しい作品です。「WFPは妙なルールの作が多くて困る」という方も、この2題はぜひ解いてください。

68-3も上谷氏の作品ですが、こちらは「禁欲」と「打歩」の2つの条件が付き、ちょっと凝った手順が必要です。どうやったら、打歩詰を実現するための歩を手に入れられるか、作者の狙いを見抜いてください。

68-4～68-9は変寝夢氏による個性的なルールや駒を使った作品群。問題設定を見ただけで白旗を上げる前に、試しに解いてみてください。きっと難度は控え目だと思います。以下は個々の作品に関する補足です。

68-4は攻方の持駒にナイトライダー(夜)があります。この1枚以外は標準の駒数ですので、受方持駒は「残り全部」です。果たしてどの駒を入手するのでしょうか。「背面」ルールも付いているので忘れずに。

68-5も攻方の持駒にナイトライダーがありますが受方持駒は「なし」となっているので、持駒のナイトライダーと盤上の駒だけで詰めて

ください。こちらには「背面」ルールは付いていませんが、68-4より紛れが多そうなので、順序を後ろにしています。

68-6は持駒にLion(鬣)がありますが、本作品展でもLionは何度か登場しているので、そろそろ慣れてきたのではないのでしょうか？本局でも受方持駒は「残り全部」ですので、合駒を読んでください。

68-7で登場するLeoは本作品展では初登場。Lionと紛らわしいですが、これは中国象棋のPao(包)の変種です。Paoが飛の動きを基本とするのに対し、Leoはクイーンの動きを基本にします。つまり、駒を取らないときはクイーンそのもの、駒を取るときはクイーンの方に1枚だけ駒を跳び越えてから取ります。駒の表記は迷いましたが、今回の出題ではPaoと同じ「包」を使っています。今後もPaoの変種が出た場合は、「包」やそれに似た字で、注釈を別途付けて何の駒か表したいと思います。本局は手数こそやや長めですが、受方持駒が「なし」なので、解図の方針は立てやすいと思います。

68-8と68-9は前回の作品展で登場したImitatorという特殊駒を使った作品です。68-8は受方持駒が「残り全部」、68-9は受方持駒が「なし」なので、手順の味わいはかなり異なります。言うまでもありませんが、68-9は「12金まで1手」ではありません。12金には75龍[I71]とする受けがあるのです。詳しくはWFP75号掲載のImitatorの紹介記事をお読みください。

68-10は前回に引き続いて一乗谷酔象氏による「威風堂々」シリーズの一作。今度は何でも「同飛」と取って駒を取り尽くすという条件設定です。ちなみに「同飛車大学」はもちろん某公共放送の某将棋番組で講師を務めている某棋士お得意のフレーズの一つ。せっかくですので、解図された方はぜひ駄洒落入りの短評をお願いします。

解答要項

第67-8訂正再出題及び

第68回分解答締切：2015年2月15日(日)
宛先：janacek789@ybb.ne.jp(メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展：年末年始の予定

来年 1 月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展の 12 月号の新規出題と来年 1 月号の結果稿はお休みさせていただきます。今後の予定は以下の通りですので、あらかじめご承知ください。

	12 月	1 月	2 月
第 67 回	結果 67-8 再出題	67-8 再掲	67-8 結果
第 68 回	再掲	再掲	結果
第 69 回		出題	再掲
第 70 回			出題

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【PWC】

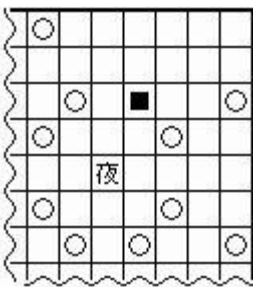
取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

・位置交換をすると「行き所のない駒」や「二歩」になる場合は普通に取られて相手の持駒になる

【ナイトライダー】(夜)

フェアリーチェスのナイトライダー。ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【中立駒】(「n」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。横向きの字か横に n を付加して表記。

→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【打歩】

打歩詰以外の詰を禁じる。

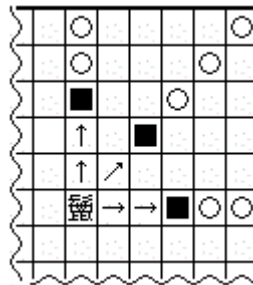
【背面】

敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入り替わる。

【Lion】(鬣)

フェアリーチェスの Lion。

クィーンの利きの方向にある駒を 1 つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。

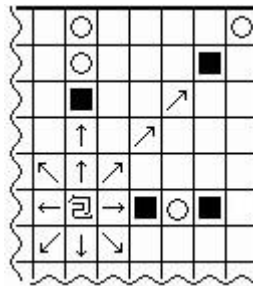


(○が鬣の利き。■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【Leo】(包)

フェアリーチェスの Leo。

中国象棋の Pao の利きの方向をクィーンにしたもの。駒を取らずに動く時はクィーンと同じ。駒を取る時はクィーンの方に 1 枚だけ駒を跳び越えて動く。



(矢印が Leo の動く方向。○は Leo が駒を取る時の利き。■は敵または味方の駒。駒を 2 枚跳び越すことはできない。)

【協力白玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【Imitator】(■)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。

→詳細は WFP75 号の「Imitator の紹介」を参照してください。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

《67-8 訂正再出題》

解答締切：2015年2月15日（日）

■ 67-8 変寝夢氏作

a) PWC協力詰 15手

将										
王										
金										
		夜								

攻方持駒なし
受方持駒なし
※夜：ナイトライダー、93香は中立駒

b) PWC協力詰 15手

将										
	王									
金										
		夜								

攻方持駒なし
受方持駒なし
※夜：ナイトライダー、93香は中立駒



《第68回 WFP 作品展》

解答締切：2015年2月15日（日）

■ 68-1 上谷直希氏作

協力詰 11手

			科	銀	銀					
						王	歩			
			桂							

持駒 桂2

■ 68-2 上谷直希氏作

協力詰 11手

									馬	
						歩			歩	
							馬	桂	王	

持駒 金 桂 香 歩

■ 68-3 上谷直希氏作

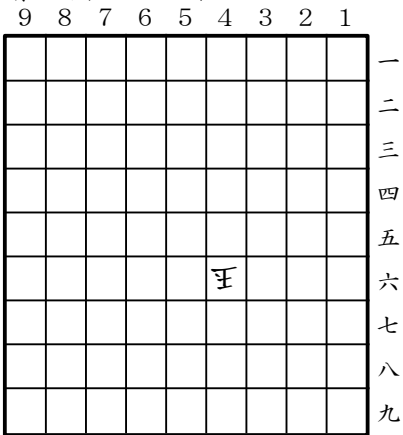
禁欲打歩協力詰 11手

						角		歩		
			龍			角		王		
									龍	
						桂				

持駒 金

■ 68-4 変寝夢氏作

背面協力詰 5手

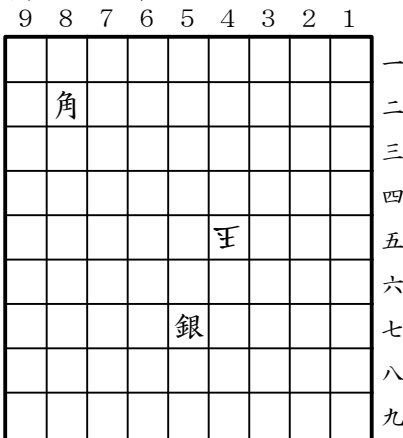


持駒 夜

※夜：ナイトライダー

■ 68-5 変寝夢氏作

協力詰 5手



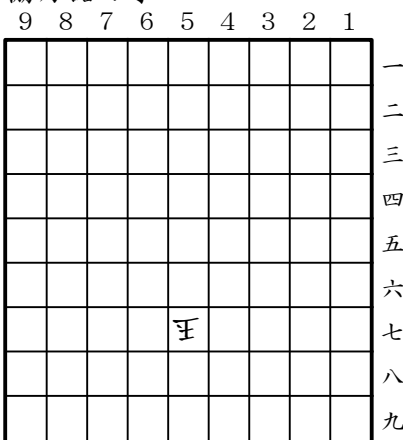
攻方持駒 夜

受方持駒 なし

※夜：ナイトライダー

■ 68-6 変寝夢氏作

協力詰 7手

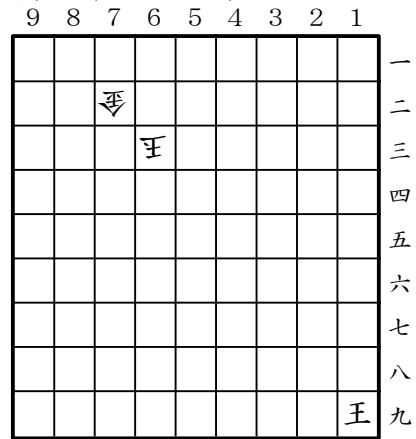


持駒 香鬣

※鬣：Lion

■ 68-7 変寝夢氏作

協力自玉詰 20手



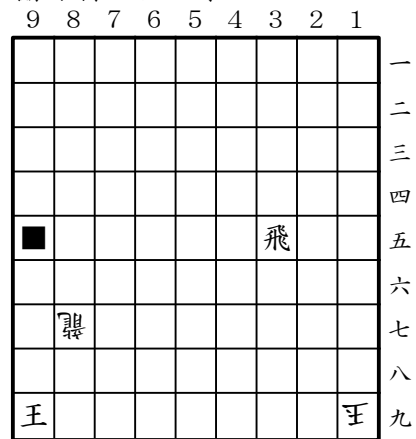
攻方持駒 包

受方持駒 なし

包: Leo (Q利きの包)

■ 68-8 変寝夢氏作

協力自玉詰 4手

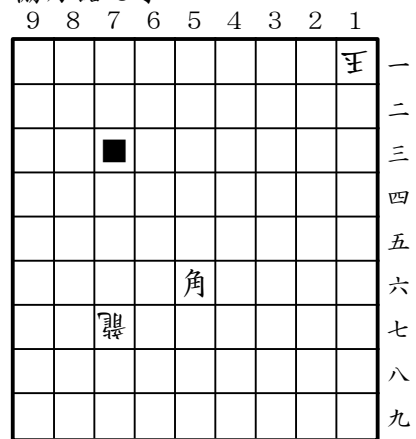


持駒 なし

※■：Imitator

■ 68-9 変寝夢氏作

協力詰 9手



攻方持駒 金

受方持駒 なし

※■：Imitator

■ 68-10 一乗谷醉象氏作

推理将棋『威風堂々、同飛車大学』

「ご機嫌だね。またなんかいいことあった？」
「53手目に全駒で詰ませて勝っちゃった」
「ホント？ 相手はどんな手を指してきたの？」
「後手は、1筋から6筋まで順番に指す手も含めて10回連続で歩を突いてきた。それから、6種の駒を各々二連続ずつ続けて指してきたよ」
「なるほど。どんな手で応戦したんだい？」
「9手目以降は、相手が直前に着手した駒をひたすら堂々と取り続けたよ。それも飛車だけでね」
「相変わらず、強欲なやつだな。それから？」
「打った飛車は結局20回連続して動いたよ。この将棋、成る手は1回もなかったけど、金頭への着手があった。駒を打った場所は全部で5カ所だけだったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

条件

- 1) 53手目で詰んだ
- 2) 9手目以降、先手は「同飛」（相手が直前に着手した駒を飛で取る手）を連続して指し続けた
- 3) 先手は打った飛を20回連続して動かした
- 4) 後手は、1筋から6筋まで順番に指す手を含め10回連続して歩を突いた
- 5) 後手は、6種の駒を各々二連続ずつ続けて着手した
- 6) 金頭への着手があった
- 7) 駒打ちの場所は5カ所だけだった
- 8) 成る手はなかった

以上



推理将棋第84回出題

担当：NAO

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第84回出題です。はじめての方は「どんな将棋だったの? - 推理将棋入門」をごらんください。

解答、感想はメールで2014年12月20日までにTETSUまで (omochabako@nifty.com) メールのお題名は「推理将棋第84回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント! 1題でも解けたらぜひご解答ください。

短手数易問の在庫が残り少なくなってきました。というわけで、今回は前月と同じ作者からの出題です。

初級は在庫がありませんので担当から。やさしめでリッチなプレゼントをお贈りします。中級はミニベロさんから新作第二弾をお届けします。条件の多さに惑わされないように。上級ははなさかしろうさんから。今年のトリは本格的な推理問題を出題します。

◇年賀推理将棋の作品募集◇

恒例の年賀推理将棋特集を年末に出題する予定です。難易度問わず作品を募集します。投稿〆切12月3日。

■本出題

84-1 初級 NAO作

リッチな輝き 9手

金駒以外の手は3手だけ。どの駒をどこで取ってどこに打つか推理しよう。

84-2 中級 ミニベロさん作

条件の多い9手詰 9手

詰みに必要な手だけでなく詰みに不要な手も見極めて詰形を推理しよう。

84-3 上級 はなさかしろうさん作

伏線とその回収 12手

終盤の1筋着手につながる伏線手を推理しよう。

■締め切り前ヒント (12月13日コメント欄に掲載予定 NAO)

84-1 初級 NAO作

リッチな輝き 9手

「さっきの将棋どうだった? 銀の手の後に金の手を2回見たけどその後盤面がキンキラキンに輝いて眩しくてよく見えなかったよ」

「結局9手で詰んだ。君の見た金の手2回の後にも銀の手を3回も見たよ。駒がギンギラギンに輝いていたね」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・銀、金、金、銀、銀、銀の順番に金駒の着手があった

84-2 中級 ミニベロさん作

条件の多い9手詰 9手

「新しい推理将棋作ったんだけど、見てくれない?」

「どれどれ、条件はどんなの?」

「5筋の手が4連続であって、4筋の手が連続であったの」

「なるほど、それだけね」

「いや、まだあるの。2筋の手があって、『左』の手もあったんだ」

「何それ? 条件多すぎ! よほどの大作なんだろうね」

「ところが9手詰作品なんだ」

「だめだめそんなの。誰も解いてくれないよ、センスないね」

「そう言わないで、やってみてよ」

というわけで、解いてやってくださいな。

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・5筋の手が4連続であった
- ・4筋の手が連続であった
- ・2筋の手があった

・「左」の手があった

※連続とは、先手・後手の断りがない限り、全手順を通じてです。

84-3 上級 はなさかしろうさん作

伏線とその回収 12手

「今遊びに来てた連中、文芸部だっけ？ 腕前はどうかだった？」

「どうだかなあ。先手なんていきなり1筋に指したと思ったら、次は68玉だぞ」

「そのあと結局、後手が最後に3手連続で1筋に指して、12手で詰んだよ」

「ふうん。全局通しで見ると、1, 8, 10, 12手目が1筋で、3手目が68玉というわけか」

「なるほど。伏線をはって、回収したってこと？ 棋譜を合作してたのかもね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 12手で詰んだ
 - ・ 1, 8, 10, 12手目は1筋の手
 - ・ 3手目は68玉
-

推理将棋第85回出題

担当：NAO

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第85回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2015年1月20日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の題名は「推理将棋第85回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

恒例の年越&年賀推理将棋を特集します。Pontamon さん、斧間徳子さん、DD++さん、はなさかしろうさん、渡辺秀行さん、諏訪冬葉さん、ミニベロさんの7名の方から投稿いただきました。多数のご投稿ありがとうございます。新年の干支(羊)と将棋を関連づけるのは難しいですが、幸い手順の重複もなく年号(15と27)や1月1日に絡めて多彩な問題が集まりました。

作品数が多いので次の通り変則出題といたします。

年末年始の本コーナー予定

第85回：12月24日出題、1月20日〆切り
第86回：1月 1日出題、2月20日〆切り
第87回：2月24日頃出題、3月20日〆切り、以降平常の出題

■本出題

第85回は年賀推理将棋の定番となった11手詰を4問出題。お屠蘇気分解いていただきたいのですが、難易度問わず募集したためか中級といえども骨のある問題もあります。

85-1 中級 Pontamon さん作

年明けて… 11手
干支にちなんだ「シープなり(4一歩成)」

を可能にする手順を推理しよう。

85-2 中級 ミニベロさん作

年越しパーティー 11手
15と27に打つ駒はどこで入手できるのか推理しよう。

85-3 中級 渡辺秀行さん作

27の駒 11手
11の手で詰む形を推理しよう。

85-4 中級 はなさかしろう作

ひつじといえば 11手
角が出没するのが6カ所でも8カ所でもない理由を推理しよう。

■締め切り前ヒント (1月13日頃コメント欄に掲載 NAO)

85-1 中級 Pontamon さん作

年明けて… 11手

「年明けて ウマ年おわり シープなり」
「何、それ？」

「友達から来た年賀状に書いてあったんだけど、どうやら、14馬と41歩成の着手がある11手詰の推理将棋のことみたいなんだ」
「2014年の14馬と4一歩成が“シープなり”の2015年の年明けって訳ね」

「このヒントで解けるらしいんだ」
「推理将棋のことは知らないけど、その友達、俳句と駄洒落については才能なしだね」

「元旦早々『駒打ちは一度だよ』と電話して来たから、推理将棋も才能ないのかもね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 11手で詰んだ
- ・ 14馬と41歩成の着手があった
- ・ 駒打ちは1回だけ

85-2 中級 ミニベロさん作

年越しパーティー 11手

将棋好きが数人で年越しパーティーをしているようです。

「みんなで2年越しの将棋を指そうよ」
「いいね、じゃあ6手目は銀の手を指すよ」
「あっ12時を過ぎた。2015年だ」
「平成27年でもあるよ」
「じゃあ9手目と10手目は15か27に着手してね」
「どちらも駒を打つ手にするよ」
「あらら、11手で詰んじゃった。1月1日から勝っても負けてもおめでとう」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・9手目と10手目は、15か27の地点への駒打ち
- ・6手目は銀

85-3 中級 渡辺秀行さん作
27の駒 11手

「平成27年の指し初めは27の駒を動かす着手があったよ」
「君にしては珍しく普通の将棋を指したのかな。それでどうなった？」
「11手目11への着手で詰めて僕が勝ったのさ」
「勝因は？」
「5手目、1段目に駒を打ったのが良かったと思うよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手目11地点への着手で詰んだ
- ・27の駒を動かす着手あり
- ・5手目は1段目への駒打

85-4 中級 はなさかしろうさん作
ひつじといえば 11手

「あけましておめでとう！ ちょうど指し初めしたところだよ。棋譜見る？」

「謹賀新年！ 今年も気合十分だね・・・お、元日らしく、11手で詰みか」
「もちろん。それから、初期位置の2カ所を含む盤上計7カ所に角を出没させてみたよ」
「え？ 未だからツノって…こじつけ！？ 羊といえば、ウールだと思うけど」
「ううむ。それなら、最終手が27の地点への着手ってことで、どうかな？」
「ははあ。今年の指し初めはこの詰め上がりがめじろ押しかもね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・角が盤上にいた地点は初期位置の2カ所を含めると計7カ所
- ・最終手は27地点への着手

第67回WFP作品展結果 担当：神無七郎

今回は第67回WFP作品展の結果を報告します。解答者は全5名。以下に今月の解答成績をまとめます。出題は全12題だったのですが、担当が67-8を誤った図で出してしまったため、11題になってしまいました。67-8は改めて解答を募集しますので、今回の計数からは除外しています。

〔第67回WFP作品展成績〕（敬称略）

○：正解 □：準正解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
たくぼん	○	○	○	○	○	○	×		○	○	○	□	10
占魚亭	○	○	○	○	○	○	×		○	○	-	-	8
変寝夢	○	-	-	-	-	○	○		○	○	○	-	6
一乗谷酔象	○	-	-	-	-	○	-		-	-	-	○	3
DD++	○	-	-	-	-	○	-		-	○	-	-	3

残念なことに67-7は作者以外の正解者なし。新しいルールでは解答者もミスも起こしやすく、この結果はある程度仕方ありません。67-12も作者以外に完全な正解者はいなかったのですが、作者から条件1)2)7)を満たす解を準正解と扱う提案があり、たくぼん氏の解を正解と同じ点数で計上しています。0.5点とカウントすることも考えたのですが、本作品展ではあまり細かい計算はしないつもりです。

次回の解答締切は来年の2月。時間に余裕がある分、解答が増えることを期待しています。

■ 67-1 上谷直希氏作（正解5名）

協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							歩		四
					科		角	飛	五
					王				六
									七
									八
								桂	九

持駒 銀

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【解答】

68馬 57桂生 55銀 56玉 47角 まで5手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							歩		四
					銀			飛	五
					王				六
					科	角			七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

ばか5手といえば最も基本であり、そして基本だからこそ難しい。日々試行錯誤ですね。

【解説】

協力詰超短編は一種の心理学。人間の盲点がどこにあるかを突き止めるのが研究の主題です。そして本局は解答者全員が難解さを認める優秀な心理テストでした。

本局を難解にしている要因は2つ。全体の構図と冒頭の2手です。まず横に並ぶ攻方の飛角が右辺での詰み、あるいは開き王手を想像させ、左辺に追う手順を思い付きにくくしています。加えて冒頭の2手。馬を遠ざけ、更に桂の移動合を行って、玉の逃げ道を3箇所から5箇所に増やします。「玉は包むように…」どころか包みに穴を空けて逃がすような手順は、棋理に反する暴挙としか思えないでしょう。

これらの手順は15飛の横利きを最大限に活かすための一貫した準備工作です。それが分かるのが最終手。47角と指した瞬間、45桂と25角という遮蔽物が消え、飛の横利きが気持ち良く通ります。王手を掛けているのは角だけなのに、まるで両王手のように爽やかな感触です。

開き王手を仄めかしつつ、実はそれを行わないという構成は、超短編で解答者を苦しめる典型的なパターンの一つですが、本局は簡潔な構図や桂不成の伏線の挿入など、作品としての完成度も高く、単なる「タイムトライアル向きの問題」とは一線を画していると思います。

【短評】

変寝夢さん

24、26、34で詰ませる筋ばかり考えていた。盲点に嵌まると5手でもきついです。

たくぼんさん

これは難解でした。
詰み型がなかなか見えませんでした。

占魚亭さん

飛車の利きを通せばいいことに気付くまで少し時間がかかりました。

DD++さん

角を動かすのは開き王手か両王手だろうと思っただけ、時間がかかりました。

一乗谷酔象さん

68馬の利きを弱める発想に至らず2時間悩みました。25角の顔を立てることを考えてようやく解決。

☆馬をちょこんと引く筋ははっきりした狙いが見えないので難しいですね。チェスプロブレムではぼんやりしていて意味の分からない手を初手に据えると良い作になることが多い(らしい)のですが、詰将棋では攻方に王手義務があるので、重要な手を「意味がなさそう」に見せるのは難しいことだと思います。

■ 67-2 上谷直希氏作 (正解2名)

協力詰 17手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							皇	龍	五
					科	歩	歩		六
						金		王	七
					角	角			八
								香	九

持駒 桂2

【解答】

38金 29玉 28金 39玉 29金 同飛成
48角 28玉 39角 37玉 28角 26玉
18桂 同龍 37角 17玉 29桂 まで 17手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
							皇		六	
					科	歩	角		七	
								龍	八	
						角		桂	香	九

持駒 なし

【作者のコメント】

もう少し良くなれないかと寝かせておきました。なかなかどうして…

玉方飛成に不利感があればうれしい。

【解説】

本局は「消去」を「遮断」で代用し、「成」と「移動」という二つの手段でそれを実現する凝った手順が盛り込まれた作です。

初形は一目 19香を消したい構図。17玉の形になれば簡単に詰むからです。でも実際に19香を消そうとすると手数が足りません。

消せないなら代わりにどうするか。その答えが「遮断」です。利きを止めれば、香を消さなくても17へ玉が移動できるようになるのです。これを実現するために6手目飛を成るが好手。更に18桂を同龍と取らせることで、19香の利きの遮断に成功しました。

協力詰で「成」は妙手ですし、成った後に移動させるというもう一つの手段と組み合わせないと目的を達成できないので、思いつくのは意外と難しいと思います。消したかった香で龍をピン止めして詰上りに逆用するのは、何だか皮肉で面白い幕切れですね。

本局は作者が手掛けていた入玉実戦型のシリーズ作品の一つですが、形から出発した割には凝った手順が織り込まれており、これも作者の手腕でしょう。前局が飛の横利きの遮蔽物を取り除くのが主題だっただけに、香の縦利きに遮蔽物を設置する本局は、良いコントラストを成しています。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

龍を18に呼ぶ手順は面白いです。

たくぼんさん

飛成が珍しいと思います。

占魚亭さん

軽快。ピンメイトになるとは予想していなかったです。

☆本局の正解者がたった2名だったのは担当者としては意外でした。

力づくで何とかかなりそうな形なので、やみくもに追い回す手順を読んだ人が多かったのでしょうか？

■ 67-3 占魚亭氏作 (正解2名) ※実質1名

キルケIsardam協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				歩					一
									二
					王	飛			三
					飛				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

【ルール】

•キルケ

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。

•Isardam

同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプA)

•キルケ Isardam

キルケ及び Isardam を両方適用する。

【解答】

34 角 同飛寄/88 角 33 角成/82 飛 同飛/88 角 同角成 52 玉 42 飛 まで 7 手

(詰上り)

				歩					一
	飛			王	飛				二
						馬			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

別案 (受方 3 三歩、4 三玉、4 四歩/持駒 角 /手順: 1 六角、2 五飛、同角 / 8 二飛、3 四飛、同角、3 二玉、2 二飛まで 7 手) とどちらを採るか迷った末、キルケらしきのあるこちらに。

一段目に駒を置きたくなかったのですが、余詰があるため無理でした。客寄せになれば。

【解説】

キルケと Isardam、それぞれの代表的な手筋が登場する作品です。

まずはキルケ。角筋で王手を掛けられる場合、取られた角が 88 に復活するので、何度でも繰り返して使うことができます。「使っても減らない〇〇」はキルケルールの代表的な活用法で、本局では「使っても減らない角」で飛の入手を図ります。ただし、1 枚目の飛は 82 に復活するので、取れるのは 2 枚目の飛です。

Isardam の効果が表れるのは最終手。52 玉には 82 飛が利いているように見えますが、42 飛は次に 52 飛成とできるので、飛と龍を別種の駒とみなす Isardam のルール下では、82 飛は玉の守りになりません。それどころか、玉が飛の利き筋から外れると Isardam の禁則に掛かるため、逆に玉の逃走を妨げています。このように可成地点からの「一方的な挟み撃ち」を利用した詰上りは Isardam の代表的な手筋です。

本局ではキルケと Isardam の効果が個々に現れますが、作者のコメントにある別案では最終手を 22 飛にすることにより、キルケと Isardam の効果を最終手で同時に使います。いかんせん、手順が平凡でボツになってしまいましたが、単独の「手」の面白さと、「手順」全体の面白さを両立させるのは難しいものです。

また、作者のコメントに「一段目に駒を置き

たくなかった」とありますが、51歩を省いてしまおうと次の余詰があります。

34角 同飛寄/88角 33角成/82飛 52玉
34馬 62玉 52飛 まで 7手

余詰はこの一つだけですが、ちょっと待ってください。なぜ余詰がこんなに少ないのでしょうか？ 例えば次のような筋では詰まないのでしょうか？

21角 32金 同角生/41金 52玉
41角生 51玉 52金 まで 7手？

この手順だと最終手に 63角という Isardam 特有の受けがあります。作意手順で Isardam は最終手のみの登場ですが、縁の下では余詰を防ぐ仕事もしていたのですね。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

面白い手順に詰め上がり。
これぞフェアリーですね。

たくぼんさん

最後に Isardam ルールが利いてくるのがちょっとした味。

占魚亭さん

投稿時にも書きましたが、51歩配置が……。

■ 67-4 占魚亭氏作 (正解 2名) ※実質 1名

キルケマドラシ協力詰 9手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
馬									二
					銀				三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【ルール】

- マドラシ
同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。
- キルケマドラシ

キルケ及びマドラシを両方適用する。

【解答】

81馬 72金 同馬/61金 63金 同馬 44玉
45金 54金 同馬/41金 まで 9手

(詰上り)

			銀	銀					一
									二
					銀				三
				馬	王				四
					金				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

キルケ Isardam を作ったので、キルケマドラシにも挑戦。金が主役です。

【解説】

最終手、馬の金を取って金の石化を解除し、金と馬の近接両王手で詰める作品。普通詰将棋ではあり得ない詰上りなので、意外性満点です。

この両王手はただのマドラシでもできますが、最後に取った駒が余ってしまいます。でもキルケなら取ったはずの駒が逃げてくれるので、手余りを気にせずすむわけですね。皆さんも駒が余るためボツになっていた構想をキルケ系のルールで実現することを検討してみたいかがでしょうか？

本局は馬が 82 付近に配置されているので、飛の入手も考えられますし、馬と銀による定番の詰上りもちらつきます。解答を先に見ると素直な手順に感じますが、結構紛れがあるのです。

【短評】

たくぼんさん

67-3 は飛でこちらは金。最後にマドラシが利いていくのが同じような感じ。

占魚亭さん

竜バージョン(攻方 82竜/受方 33竜、36金、45玉/手順 85竜、75金、同竜/61金以下9手)もあるのですが、36金配置が気に食わな

いのでお蔵入りに。

☆同じプロットでも別の駒で行うと予想以上に印象が変わることがあるので、他の駒への適用はぜひ試してみてください。それに馬版に限ってもバリエーションは色々あると思います。例えば 92 馬は 71 や 82 に置いても良いですし、5 筋の金を取って復活場所を選択させるような構成（例えば攻方 62 馬・受方 33 馬 34 玉として「61 馬 52 金 同馬/41 金 23 玉 41 馬 24 玉 25 金 14 金 同馬/41 金 まで 9 手」を作意にする）もあったと思います。本局で使われた石化解除による両王手はマドラシの花形手筋なので、応用範囲はとても広いはずです。

■ 67-5 占魚亭氏作（正解 2 名）※実質 1 名

背面マドラシ協力自玉詰 8

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							王		四
								玉	五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

【ルール】

- 背面
敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入り替わる。
- 背面マドラシ
背面とマドラシを両方適用する。
順序は背面、マドラシの順。
- 協力自玉詰
先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【解答】

27 桂 35 桂 同王 14 玉 13 桂 21 桂
25 王 26 桂 まで 8 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							桂		一
								桂	二
								玉	三
							王		四
							桂		五
							桂		六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

桂尽くし。64-12 よりも易しいと思います。

【解説】

双裸玉で始まり双玉四桂詰で終わる「立体曲詰」ならぬ「立体条件作」。手順も桂尽くしで、相手を桂に変えてはくそ笑んでいたら、自分も桂に変えられてしまったという、「策士策に溺れる」的なストーリー性も感じさせます。

まず初手は桂を打つ一手。14 桂では後が続かないので、27 桂しかありません。そして 35 桂のマドラシ特有の受けを見つければ筋に入ったと感ずるでしょう。手数を考えると合駒や背駒を動かしている余裕はないので、自玉で王手を掛け、王手逃れの王手を掛けて貰うしかありません。でも本局の「マドラシ」は「Kマドラシ」ではないので、通常は玉で王手を掛けることはできません。そこで、「背面」の利用を考えます。もちろん「背面」でも玉で王手を掛けることはできませんが、「背面」と「マドラシ」が組み合わせるとそれが可能になります。

5 手目と 6 手目のやり取りに注目してください。5 手目 13 桂で「背面」により玉と桂の利きが交換されました。次に 6 手目 21 桂で「マドラシ」により 13 桂を石化しています。これで 14 玉を桂の性能にしたまま王手を解除できました。利きの変化は「背面」→「マドラシ」の順に 1 回ずつ評価され、再帰的に性能変化を適用したりはしないことに留意してください。つまり「13 桂の利きがないから、14 玉の利きも消えて…」などと、性能変化の多重継承や無限ループを心配しなくても良いのです。

こうして玉を桂に変身させたところで、懸案だった自玉での王手を行い、26 桂の背面逆王手で無事、自玉を詰めることに成功しました。も

もちろん、最終手 33 玉とは逃げることはできません。21 桂は 13 桂を石化しています（13 桂は玉の性能になっていますが、駒種自体は桂のままなので、21 桂の利きによって石化されます）が、13 桂は玉の性能なので 21 桂を石化できません。従って 21 桂の 33 への利きは残ったままなのです。

通常、マドラシでの利きの消滅は相互に起こるものですが、性能変化系ルールとマドラシの組み合わせでは、こうした「一方が他方を一方的に石化する」という状況がしばしば起こります。本局は双裸玉から双玉四桂詰になる条件作ですが、フェアリーではこんな厳しい条件下でも凝った手筋を織り込めるのが嬉しいですね。

【短評】

たくぼんさん

手が狭いので難しくはないが、心地よい手順。

占魚亭さん

安易すぎるかなと思いつつも、桂を使ってしまいました。

☆双裸玉で桂が主役のマドラシというと神無太郎氏の「矢継Ⅱ」が思い出されますが、これが頭にあると生半可な作品は発表しにくいですね。でも、創作時はそんなことは気にしない方が良いでしょう。先例を気にするのは投稿のときだけにしましょう。

■ 66-6 変寝夢氏作（正解 5 名）

協力詰 3 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒なし
受方持駒なし
※■：Imitator

【ルール】

•Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。

→詳細は WFP75 号の「Imitator の紹介」を参照してください。

【解答】（※Imitator の移動を[]内に表す）

18 馬[I77] 74 桂[I69] 41 香成[I61] まで 3 手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			■		杏				一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒なし
受方持駒なし

【作者のコメント】

これは例題かな。

【解説】

わずか 3 手に Imitator のエッセンスがいっぱい詰まっている作品。本局では特に「盤の外に Imitator が出るような手は指せない」というルールを強く意識させられます。

まず初手の 18 馬から変な感じがします。普通の協力詰では最終手以外に受方の選択肢がなくなるような手は指さないからです。でも、選択肢はなくなっていない。Imitator を利用した独特の受けがあるのです。

2 手目 74 桂がその独特の受け。こうすると Imitator が九段目に来るので、18 馬で玉を取ると Imitator が盤外に飛び出すことになり指せません。

でも盤端を利用できるのは受方だけではありません。3 手目 41 香成の最遠移動が派手な返し技。こうすると Imitator が一段目に来るので、今度は玉で馬を取ることができないのです。他に受ける手段もなく、これで詰みです。初手以外は玉と関係ないところで駒が動いている妙

な手順ですが、これが **Imitator** を使った作品の典型的な応酬なのです。

上下だけでなく左右の盤端も重要です。例えば2手目 **74** 桂の代わりに **94** 桂としてみましよう。今度は作意と同じように **41** 香成としても詰みません。このとき **Imitator** は **81** に来ているので、**41** 香成に対し **29** 玉とすれば逃れます。このとき **Imitator** は **91** にいるので、**29** 馬と玉を取る手は **Imitator** が盤外に飛び出す禁手になってしまうのです。盤端に注意を払うのはもちろんですが、**Imitator** が盤端から一路内側にいるときも、充分注意を払って解図してください。

【短評】

たくぼんさん

82 桂、**49** 香配置で一目だが、分かり易く面白い手順。

占魚亭さん

2手目に9筋に跳ねると2九玉の受けが利くわけですか。**Imitator**、なかなか面白いです。

DD++さん

桂跳ねが左右どちらでもいいのかと思ったら9筋に跳ねると最後 **29** 玉[I91]で逃れですか。

一乗谷酔象さん

桂も限定でした。

☆本作品展では初登場のルールですが、桂跳ねの限定に皆さん気づいていました。作者自身による紹介記事が功を奏したようです。



■ 67-7 変寝夢氏作 (正解1名) ※実質正解者なし

協力自玉詰 6手

									王	一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
									王	八
										九

持駒 金

※■ : Imitator

【解答】

22 金 **16** 飛 **29** 玉[I38] **27** 飛
38 玉[I47] **18** 飛成[I49] まで **6** 手

(詰上り)

									王	一
								金		二
										三
										四
										五
										六
								飛		七
							王		龍	八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

小品ですが、完成品かな。

【解説】

こちら初手以外は、まるで受方玉を無視して関係ない駒が関係ない所で勝手に動いているような奇妙な手順が繰り返される作品。盤端をクローズアップした前局に対し、本局は「駒があるところに **Imitator** が動けない」ことをクローズアップする構成になっています。

2手目 **16** 飛が「駒があるところに **Imitator** が動けない」という性質を利用した受け。これに対して攻方は自玉を動かして、**22** 金の再活性化を図りますが、受方は再び **Imitator** の動きブロックする駒を置くという手順を繰り返して、攻

方玉を詰めるための準備を整えていきます。

一つ注意しないといけないのは **Imitator** と駒の動きが同時であることです。4手目を指し終わった局面では **Imitator** は **38** にいますが、5手目 **38** 玉と指すことができます。**Imitator** も同時に **47** に動くので邪魔にはならないわけです。

しかし盤上の駒で **Imitator** をブロックすることに目を奪われると本局は解けません。最後の最後に盤端を利用するテクニックが登場します。それが最終手 **18** 飛成。攻方玉はまだ八段目にいますが、逆王手と同時に **Imitator** を九段目に移動することで、玉の九段目への逃走を妨げます。盤の大きさを実質一段削減するわけですね。

この最終手は上から下に狭いところに押し込めようとする攻めから、右辺から左辺の広い方に逃がすような手順になる（実際は飛の威力で捕まっている）ため、大きな盲点になっています。残念ながら作者以外の正解者はゼロになってしまいました。

【短評】

たくぼんさん（※誤解）

このルール不思議な感覚ですね。

☆たくぼんさんは「**22** 金 **16** 飛 **28** 王[**137**] **26** 飛打 **19** 王[**128**] **22** 飛[**124**] 迄 **6** 手」の解答ですが、最終手に対し **29** 玉[**134**]で逃れます（**Imitator** が盤外に出るので「同飛」とできません）。

占魚亭さん（※誤解）

これしか浮かばなかったのですが、多分間違ってますね。

☆占魚亭さんは「**1** 二金、**2** 六桂、**2** 九玉[**I 3** 八]、**3** 七桂、**1** 九玉[**I 2** 八]、**2** 七桂まで**6** 手」の解答ですが、最終手が王手になっていません（**Imitator** が盤外に出るので「**19** 桂成」とできません）。

DD++さん（※無解）

I を壁に押し付ける手段で詰みやすくなるかと思いきや実際は全くの逆で、最初の金で **I** を壁に押し付ける逃れ方が超ウルトラ強力。その無力化を試みるも「**21** 金、**17** 角、**29** 玉[**381**]、**28** 飛、**39** 玉[**481**]、**21** 飛成[**411**]」は **49** か **51** が塞がっていると詰まないし、「**22** 金、**16** 香、**29** 玉[**381**]、**27** 飛、**19** 玉[**281**]、**22** 飛

成[**231**]」も **29** 玉で龍の利きが **28** までしか届かないし。でもこれらって成生限定しないんで全く見当外れなのかなあ。玉で取って開き王手も成功しそうにないし、**I** を中空に運んで普通に詰ますのかなあ。

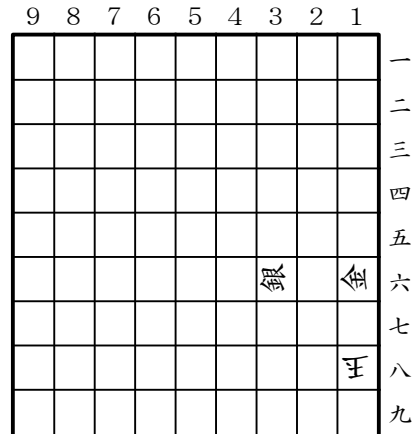
☆このようにルールに不慣れなための誤解答もありましたが、ルールが分かっているでも本局の詰上りを想定するのは難しかったようです。**Imitator** に解答者が慣れるまで、もう少し作例を積み重ねる必要がありそうです。

■ 67-8 変寝夢氏作（誤図のため再出題）

本作は誤植（手数誤記）がありました。出題時、手数が「**9** 手」となっていましたが、正しくは「**15** 手」です。正図にて改めて出題しますので、改めて解答をお願いします。

■ 67-9 変寝夢氏作（正解3名）

協力詰 5手



持駒 なし

※16金、36銀は中立駒

【ルール】

●中立駒（「**𠄎**」あるいは「**n** 駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

横向きの字か横に **n** を付加して表記。

→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【解答】

17n 金 27n 金 同 n 銀 28n 銀生 19n 金 まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							銀	玉	七
								金	八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

詰め上がりは見えやすいはず。

【解説】

ここから3題は中立駒に慣れて貰うための小品。面白いことにこの67-9は、67-6や67-7のImitator作品と同様、盤端を活用する手順が狙いとなっています。

例えば「17n金 27n金 同n銀 17玉 18n金」としてみましよう。これは最終手で「19n金」や「29n金」という受けがあり、不正解です。作意のように中立駒の金を九段目に打つ展開にすれば、もう金を動かす場所はありません。一瞬は「29n金」で逃れるように見えますが、攻方の手番でこの金が玉に利くため受けになっていません。この作品展でも行動範囲を制限することによって中立駒で詰める作品がいくつか登場しましたが、本局はその最も簡素な表現と言えるでしょう。

金や銀は上下非対称な利きを持つ駒なので、これらを中立駒にすると、手番ごとに利き先が異なることとなります。そうした性質も中立駒の独特の味わいを増すのに役立っています。

また、上下の非対称性は駒だけではなく、盤にもあります。地味ですが4手目「28n銀生」に注目してください。手番によって、成・不成の選択ができたりできなかつたりするのです。この非対称性も中立駒作品の創作・解図において重要なポイントです。

【短評】

たくぼんさん

中立駒の連続活用2発はお見事。

占魚亭さん

「中立駒の紹介」の例題(2.2)のアレンジですね。

■ 67-10 変寝夢氏作 (正解4名)

協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
								玉	九

持駒 n角

※持駒n角は中立駒

【解答】

18n角 54n角成 65n馬 19玉 29金 まで5手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
								金	九

持駒 なし

【作者のコメント】

成は純粋に最終手のためだけの行為にのります。

【解説】

協力詰では「成」が妙手になることを67-2で見ましたが、本局も「成」が主題の作品です。

まずは普通に「47n角 38金 同n角 19玉 29金」と進めてみましょう。これは最終手に対し「同n角生」という受けがあつて詰みません。ただし、このとき「同n角成」としてはいけません。これは次に攻方の手番になったとき、自

玉への王手になるからです。

これに気づけば 65 に置いてある駒が金であることと合わせて作意が見えます。角を馬に変え、合駒ではなく駒取りで金を入手すれば良いわけです。3回連続の角の活用で背後から駒を取る手順は中立駒ならではのものです。

本局と前局は簡素な形から、中立駒の特徴を上手く炙り出した作品です。こうした作品が増え、中立駒のリファレンスとして紹介されるようになれば、詰将棋での中立駒の理解も進むのではないかと思います。

【短評】

たくぼんさん

成限定の意味付けがいい味だが、非限定のため金が 92 に置けないのは痛し痒しか。

☆金を 92~74 に置くと3手目に成っても良くなりますね。それに 92 金型だと初手 83 角の余詰も生じます。非限定や余詰がなく、角の動きが最も派手になる金の置き場所が 65 だったわけですね。

占魚亭さん

金を取るにはこの手順。

DD++さん

最後これでは詰んでないと思ってしまいました。n馬で取っても助かってないんですね。

■ 67-11 変寝夢氏作（正解2名）※実質1名

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			夜				金		一
							王		二
									三
							金		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

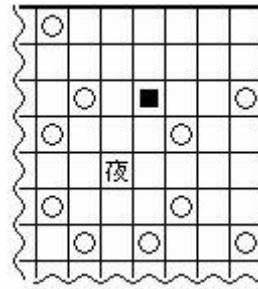
※夜：ナイトライダー、61夜は中立

【ルール】

- ナイトライダー（夜）

フェアリーチェスのナイトライダー。

ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【解答】

85n夜 47n夜 23飛 11玉 13飛成 まで 5手

(詰上り)

									金	王	一
											二
										龍	三
										金	四
											五
											六
						夜					七
											八
											九

持駒 なし

【作者のコメント】

この両王手は見えやすいと思う。

6 2 飛、5 2 X、同飛成、3 1 玉の余詰筋をなんとかかわした。

【解説】

ナイトライダーは強力な駒ですが、これが中立駒だと攻駒でもあり受駒でもあるという二重性のため結構扱いに困ります。例えば自分の駒のつもりで「12 飛 31 玉 42 飛成」とすると「同 n 夜」と取られます。かといってナイトライダーを無視して 62 飛などとしても馬2枚が強力で詰みません。

こういう時は両王手の出番です。これには二つの意味があります。まず、守りが強力なとき両王手を狙うのは鉄則です。それに両王手なら中立駒を攻駒として使えます。中立駒の単独王手だとその中立駒に逃げられる可能性がありますが、両王手ならその心配は少ないのです。

両王手と言っても通常の駒を軸に中立駒を開く形だと、中立駒を元の位置に戻して両王手

をキャンセルされる恐れがあります。従って、中立駒を軸として通常駒を開いて両王手を狙わねばなりません。となると、ナイトライダーを軸に据え、飛で利きを一旦止める形が浮かびます。ナイトライダーより龍の方が玉の逃げ道を塞ぎやすいので、その意味でもナイトライダーを玉から遠くに、飛を玉の近くに配する形は想定しやすいでしょう。

本作品展では以前、57-6で紛れに中立駒の両王手が出てきましたが、作意で中立駒を使った両王手が出てきたのは初めてです。やはり両王手のような派手な手は水面下に潜ませるより、表に出した方が良いでしょう。

【短評】

たくぼんさん

両王手しかないですよ。

☆ナイトライダーを使った詰将棋は過去にもそれなりに発表されていますが、まだまだ市民権を得るにはほど遠いのが現状です。本局も両王手の発想さえ浮かべば易しい作だと思うのですが、作者以外の正解者はたくぼんさん一人でした。



■ 67-12 一乗谷酔象氏作（正解1名+準正解1名）

推理将棋『威風堂々、斯々然々』

「誇らしげに胸を張ってご機嫌だね。
なにかいいことあった？」
「たったの54手で詰ませて圧勝したよ」
「ホントかい？どんな将棋だった？」
「斯く斯く然々、相手の態度が癩に障ったから、
全駒で負かせてやった」
「それじゃわかんないよ。
相手はどんな手を指したんだい？」
「先手は指し手の順番に不思議なこだわりがあ
って、不成と指した駒を後手に取られたとき、

先手の応手は必ず歩を突く手だった。そして、先手が4段目の手を指した次の手では、不成の手を指すことがなかった。そんな指し回しが癩に障ったね」

「それでどうしたんだい」

「10手目以降、相手が直前に着手した駒をひたすら堂々と取り続けたよ。それも角だけでね」

「相変わらず、強欲な奴だな。抵抗されなかったのかい」

「この将棋、成る手は1回もなかったんだけど、同角不成の手に対しては駒を打たれる応手が1回だけあった。玉頭に駒を打つ手もあったけど駒を打った場所は全部で4カ所だけだったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

条件

- 1) 54手で詰んだ
- 2) 10手目以降、後手は「同角」(相手が直前に着手した駒を角で取る手)を連続して指し続けた
- 3) 先手は、4段目に着手した次の手(2手後)に不成の手を指すことはなかった
- 4) 不成で動いた駒を後手に取られたとき、先手の応手は必ず歩突きの手だった
- 5) 同角不成の手に対する先手の応手には1回だけ駒打ちの手があった
- 6) 駒打ちの場所は、玉頭を含む4カ所だけだった
- 7) 成る手はなかった

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

76歩 42飛 33角生 44歩 同角生 同飛
26歩 52角 16歩 同角 25歩 同角
13香生 同角 36歩 同角 14歩 同角
46歩 同角 23飛生 同角 56歩 同角
28銀 同角生 17桂 同角生 39金 同角生
75歩 同角生 74歩 同角 96歩 同角
74歩 同角 47歩 同角生 93香生 同角
66歩 同角 14歩 同角生 88銀 同角生
79金 同角生 97桂 同角生 86歩 同角生
まで 54手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一
									二
	歩	歩	歩	歩					三
					飛			角	四
									五
	角								六
									七
									八
				玉					九

持駒 なし

【作者のコメント】

本作の狙いは、「23 連続同角」です。mixi で Pontamon さんが同々巡り(同角版)を提案され、それに便乗したものです。

オリジナルは 22 連続でしたが、たまたま 23 連続で詰みの手順を見つけたので強引に条件付けしました。飛角と玉が離れた詰上り形が面白く、タイトルを星座にたとえようかと考え、調べましたがしっくりする名前(秋の四辺形、ペガサスの四辺形の案はありましたが、四辺形の形も崩れているし、いま一つ)がなく、同々と角角で語呂合わせし、「威風堂々、斯々然々」に落ち着きました。

序が 10 手もあり、とっかかりにくいのですが手順が面白く、詰め上がりが解答者の意表を突くのではと思います。

条件の確認

3) 先手は、4 段目に着手した次の手(2 手後)には不成の手を指すことはなかった

- ・ 5 手目 ▲44 同角不成の次は ▲26 歩
- ・ 17 手目 ▲14 歩の次は ▲46 歩
- ・ 33 手目 ▲74 歩の次は ▲96 歩
- ・ 37 手目 ▲74 歩の次は ▲47 歩
- ・ 45 手目 ▲14 歩の次は ▲88 銀

この条件は「不成の手の前には 4 段目以外の手を指した」と同じ意味です。

4) 不成で動いた駒を後手に取られたとき、先手の応手は必ず歩突きの手だった

- ・ 5 手目から ▲同角不成△同飛 ▲26 歩
- ・ 13 手目から ▲13 香不成△同角 ▲36 歩
- ・ 21 手目から ▲23 飛不成△同角 ▲56 歩
- ・ 41 手目から ▲93 香不成△同角 ▲66 歩

5) 同角不成の手に対する先手の応手には 1 回だけ駒打ちの手があった

- ・ 32 手目の△75 同角不成に対し、▲74 歩打

6) 玉頭を含めて 4 カ所に駒を打った

- ▲14 歩(2 回)、▲74 歩(2 回)、▲47 歩、△52 角(玉頭)

※主な紛れ

基本条件：10 手目以降、後手は「同角」連続で指して 54 手で詰み

序盤

▲76 歩△42 飛▲33 角不成△44 歩▲同角不成△同飛

- ・ 同飛は同角の手順も成立しそうなので、条件 3)4)で除外。
- ・ ▲76 歩△44 歩▲同角△42 飛▲33 角不成△同桂、以下作意に進む
条件 3)で除外

駒打ち

14 歩の 1 回目：

同角の後 23 飛生を取るため。45 歩打の変化手順が成立。

16 歩の代わりに 36 歩から入る別ルート(36 歩→25 歩→16 歩)では 34 歩打も成立。

玉頭駒打ち(52 角)で限定。

14 歩の 2 回目：

同角不成の後、58,69 に効かしつつ、49 まで 42 飛の効きを通す。25 歩、36 歩が成立。

74 歩 2 回と 47 歩は必然手。

52 角：

16 歩を取るため。25,34,43,27,38 も可。

これらの余詰め順を防ぐため、駒打ち場所を玉頭含む 4 カ所で限定。

また、47 歩と 2 回目の 14 歩の着手タイミングは非限定。このため

- ・ 47 歩は 4 段目着手(2 回目の 74 歩)の次の不成禁止で限定。74 歩の直後
- ・ 2 回目の 14 歩は「同角不成の手に対する相手の駒打ち 1 回」で 66 同角の応手に限定。(同角不成の手に対する唯一の駒打ちは 1 回目の 74 歩打が必然手のため限定される)

先手の不成タイミング

13 香、23 飛、93 香の不成は前後多数あり。

4 段目着手の次の不成を禁じ、絞り込み。更に、不成の次の歩突きを指定して限定。

【解説】

チェスの世界には「エンドゲーム」という概念があり、どんな駒が残っていれば玉を詰めることができるか、体系的に調査されています。将棋の場合、駒の再利用が可能なのでその種の研究は行われませんが、本局の解図に当たっては正にそのような作業が必要です。つまり「生角 2 枚では裸玉を詰められない」という事実を最初に確認してから解図を行わねばなりません。これを念頭に置けば、先手玉を詰めるために後手の飛を関与させること、そしてその飛を 4 筋に利かせることが芋づる式に判明します。詰上りの形も、正確な角の位置までは特定できなくても、角をどの筋に配するかまでは絞り込むことができます。

次に「同」の回数を増やす算段を立てます。「同」の回数を増やすには自駒を取らせるだけでは足りないので、後手の駒を入手する必要があります。自陣から相手陣に届くのは飛 1 枚と香 2 枚。角は相手に取らせないといけませんし、桂を参加させるほど手数に余裕はありません。最初に角で取れる歩 2 枚と、飛香を使って入手できる歩 3 枚、そして角と玉を除く自駒 18 枚、これでギリギリ 23 枚です。

ここまで来れば、後は条件に合うように手順を調整するだけ…のはずなのですが、条件がなかなか凝っていて、これに合わせるのは至難の業です。特に作意で 6 手目「同角」ではなく「同飛」とするのが妙手。角を活躍させたいのに、角道に飛を置くこの手は盲点です。実は 22 角は通常の角筋に沿って使うのではなく、13 香に「同角」として、裏口から回して使うのです。必要最小限の条件である 1)2)7)の以外の各条件、特に条件 3)4)は、この捻った角の使い方を成立させるためのものだったわけです。

他の条件は歩を突くタイミングや、打つ場所を限定させるのが主目的ですが、6)の条件の中に角打ち(52 角)の限定を内包していたりして、一筋縄ではいきません。詳細な紛れや個々の条件についての解説は作者自身の説明をご覧ください。とて、単に「連続同角 23 回」という記録を達成するだけでなく、その手順にも工夫を加えようという作者の強い意志を反映した作品だ

と思います。

【短評】

たくぼんさん

条件 5.6 未達: 52 手の順までは辿り着いたのですが・・・。

76 歩 42 飛 33 角生 44 歩 同角生 同角
86 歩 52 角 26 歩 同角 16 歩 同角
17 桂 同角生 38 金 同角生 27 飛 同角生
36 歩 同角生 28 銀 同角生 46 歩 同角生
47 歩 同角生 13 香生 同角 56 歩 同角生
57 歩 同角生 66 歩 同角生 78 銀 同角生
96 歩 同角生 85 歩 同角 93 香生 同角
75 歩 同角 58 金 同角生 36 歩 同角生
86 歩 同角 77 桂 同角生 まで 52 手
序盤と詰上りは合っていると思うが、7 手目が違うのかもしれない。

似たような筋で 23 に飛が不成で入る 54 手も見つけましたが。5.6 条件がクリア出来ない。

76 歩 42 飛 33 角生 44 歩 同角生 同角
86 歩 52 角 26 歩 同角 16 歩 同角
17 桂 同角生 38 金 同角生 27 歩 同角生
36 歩 同角生 14 歩 同角 23 飛生 同角
28 銀 同角生 46 歩 同角生 13 香生 同角
56 歩 同角 57 歩 同角生 66 歩 同角生
78 銀 同角生 96 歩 同角生 85 歩 同角
93 香生 同角 75 歩 同角 58 金 同角生
14 歩 同角生 86 歩 同角 77 桂 同角生
まで 54 手

☆たくぼんさんの最初の解答には 52 手解だけが書かれていたのですが、作者から以下のような「条件緩和」の提案が示されたので、追加で 54 手解を送って貰いました。これは準正解ですが、「連続同角 23 回」は達成しているので、限りなく正解に近い準正解です。

一乗谷酔象さん

条件 1)2)7)を満たせば、準正解と見做して構いません。条件 3)~6)はかなりマニアックな条件付けです・・・。

☆普通の人だったらもっと簡単な手順が正解になるように条件を付けるのでしょうかね。条件だけでなく、手順にも凝るのが一乗谷酔象流の推理将棋の特徴です。

【総評】

変寝夢さん

早いものでもう年の瀬ですね。来年も VM とともに未開の地を切り開いていくつもりです。来年もよろしくお願いします。

DD++さん

67-2、67-9、67-11、67-12 は時間があればいけるかもという感じですが、67-7 に時間を使いすぎました。しかも結局時間切れ無解。残念。

一乗谷酔象さん

解図時間は十分あったはずなのに・・・手を出せませんでした。

☆まだ結果稿が1回分残っていますが、今月で今年度の WFP 作品展出題は終了です。皆さんはどの作品がお気に入りでしたか？
筆者の担当業務は、今回の誤記を含め多々不手際がありましたが、来年も皆さんの投稿と解答でこの作品展を盛り上げてください。

☆ここで一つお知らせを。

Worst1.exe に f m のような中断・再開機能を追加しました。これで長時間の検討も可能になります。まだ解けない作も多々ありますが、自作の普通詰将棋は全部解けるようになったので、個人的には満足しています。説明書などもアップデートする必要がありますが、何とか年内公開を目指して作業を進めたいと思います。

以上



Fairy of the Forest #41 解答発表

Fairy of the Forest #41 結果発表

- 2014年08月20日：課題発表：(協力詰)
金または「と」が活躍する作品
- 2014年10月15日：投稿締切
- 2014年10月20日：出題
- 2014年11月15日：解答締切
- 2014年11月20日：解答延期
- 2014年12月15日：再解答締切
- 2014年12月20日：結果発表

結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)
(○は全題正解者)

○神無七郎、○隅の老人B、占魚亭、○たくぼん

☆解答期限をひと月延長したのですが、残念ながら新たな解答はありませんでした。もはや諦めの境地です(笑)。

■ 41-01 たくぼん 協力詰 27手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	ス	ス								一
				王						二
	ス									三
飛	飛	飛	飛							四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 歩3

92歩 同玉 93歩 82玉 92歩成 72玉
 82と 同と直 73歩 81玉 72歩成 92玉
 82と 同と引 93歩 81玉 92歩成 72玉
 82と 同飛 73歩 81玉 72歩成 92玉
 82と 93玉 83飛 まで 27手

(詰上り図)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			ス							一
		と			王					二
王	飛									三
飛		飛	飛							四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

作者－振り子のようなくるくる趣向です。

☆81地点を間に挟み、92～72の2地点を玉が左右に揺れ動く様は、確かに「振り子」を彷彿させます。

占魚亭－82地点が要衝。対称的な手順で面白かったです。

隅の老人B－と金で追い掛け回して、ようやく飛車が取れました。ホット一息、ああ草臥れた。

☆82地点に守備駒を呼び出し、ハガシを繰り返します。しかし、すぐに83とを呼び出そうとすると手が続かなくなるので、まず81とを呼び出し81地点を空けます。そうしてから83とを呼び出し、次に84飛を呼び出すのが狙いです。最後は入手した飛を打って詰に至ります。

七郎－普通の手順を紛れに設定し、裏筋で勝負する心理作ですね。飛は余詰防止の配置だと思っていたので、この手順は意外でした。でも、余詰探しをしているようで、爽快感に欠けるのはこの種の作品の弱点でしょうか。ちなみに最初に読んだ手順は以下の通り。

92歩 同玉 93歩 82玉 92歩成 72玉
 82と 73玉 72と 同玉 73歩 82玉
 72歩成 91玉 81と 92玉 93歩 同と
 91と 82玉 81と 72玉 71と 82玉
 83歩 91玉 81と 92玉 82と まで 29手

☆この順も際どいですね。64歩がないと、この

9手目から83と、64玉、65歩、75玉、76歩、85玉、84と以下、早詰が成立してしまいます。

たくぼん

客寄せにはなったでしょうか？個人的には02よりこちらが好きです。

■ 41-02 たくぼん 協力詰 31手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス	ス	王							一
				王					二
ス	と	ス							三
歩	飛	歩	飛						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩2

72歩 同と引 同と 同玉 73歩 82玉
 72歩成 83玉 73と 92玉 83と 同と
 93歩 82玉 92歩成 71玉 81と 72玉
 73歩 同と 71と 82玉 81と 92玉
 91と 82玉 83歩 71玉 81と 72玉
 82と まで 31手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
	と	王		王					二
	歩	ス							三
歩	飛	歩	飛						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

作者-64 飛を置かないと余詰むのがちょっと残念です。

☆64 飛は、
 (A)作意 19手目から 82と、73玉、83と、64玉、65歩、75玉、76歩、85玉、84と、96玉、

86 飛、95 玉、85 とまで。

(B)作意 23手目から 72と、83玉、73と、92玉、93歩、81玉、92歩成、71玉、62とまで。
 という2種の余詰を防いでいます。

隅の老人B-好きと暇、後は根気で詰みました。詰み上げたら辺りは暗い、これで今日も過ぎて行く。

七郎-前局で実現しなかった筋がこちらで実現。余詰や非限定がなければ、と金の枚数を増やしたいところですが、きっとそうはいかなかったのでしょうか。

☆こちらは一段目のと金をハガシます。途中93とを83→73と移動させ、壁にしておくのがポイントです。なお、本局の84 飛は、最終手82歩成の余詰防止用です。

占魚亭-83とが詰上りで歩に。

☆初形のと金中、83だけが攻方なのはウッカリしやすい所です。

たくぼん

手を繋げようとすれば正解に辿り着くでしょう。

■ 41-03 神無七郎 協力詰 107手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							皇	皇	五
							飛		六
飛							王		七
皇	香	王							八
鶴	香	鶴	香	香					九

持駒 金桂歩18

77金 68玉 67金 58玉 57金 48玉
 49歩 同金 47金 38玉 39歩 同金
 37金、48玉 ◎49歩 57玉 47金 67玉
 68歩 同銀成 57金 77玉 67金 78玉
 77金 88玉 87金 78玉 ▲79歩 67玉
 77金 57玉 67金 47玉 48歩 58玉

59歩 同金 57金 48玉 47金 38玉
 37金、48玉 ◎49歩 57玉、58歩 同成銀
 47金 67玉 57金 77玉 78歩 68玉
 67金 78玉 79歩 同金 77金 68玉
 69歩 同金右 67金 78玉 77金 88玉
 87金 78玉 ●79歩 67玉 68歩 同成銀
 77金 57玉 67金 47玉 48歩 58玉
 57金 48玉 47金 38玉 37金 48玉
 ◎49歩 57玉 58歩 同成銀 47金 67玉
 68歩 同金 57金 77玉 78歩 同金
 ※89桂 68玉 69歩 同金上 67金 78玉
 ●79歩 87玉 88歩 同銀成 77金 まで
 107手

(詰上り図)

											9	8	7	6	5	4	3	2	1		
																					一
																					二
																					三
																					四
																			歩	歩	五
																				飛	六
											桂	王	金							王	七
											歩	玉			玉						八
												桂	歩	玉	玉	歩	玉				九

持駒なし

作者一素材は9段目の金を順にずらしていく単純なものです。例によってちょっと複雑化しました。桂を99や79ではなく89で使うことを見抜けるかどうかか鍵になると思います。

☆「ちょっと複雑化」と書かれていますが、その程度ではなかったようで……。

占魚亭一途中で行き詰ってしまいギブアップ。1日で全部解こうと思ったのが間違いだったかも。

☆実質的な（作者以外の）正解者は、隅の老人Bさん1名のみとなりました。

隅の老人B一瞥、これが詰むの？です。初手は絶対これしかない。持駒の桂は何処で何時使うのかな？ 詰め終えて思うこと、七郎さんの構想の妙はいつも凄いな、です。

☆17王に王手がかかっているので、初手金打および攻方金の動く場所は七段目に限られます。その中で九段目の金銀を順次ずらして、※89桂打のスペースを作るのですが、その順が巧妙精緻を極めます。とりあえず、受方の金銀がどう動いたかを整理してみましょう。

- ①59金→49→39金
- ②69金→59金
- ③79銀→68全→58→68→58全
- ④89金→79→69→68→78→69金
- ⑤99銀→88全

特に③④の複雑な動きが印象的です。⑤は退路封鎖のためですが、①～④の金銀の繰り替えは玉位置と関連しており、またその玉位置は歩の打ち場所と関連しています。つまり、本作の手順は、

- (1)攻方金は七段目しか移動できない
- (2)九段目に歩を打つときは玉は八段目
- (3)八段目に歩を打つときは玉は七段目

という三つの原理によって成立しているのです。もし79銀が金だったら、(1)(2)だけで移動は可能ですが、このままでは収束に入れなくなります。仮に収束を変えたとしても単調に終わるでしょう。ところが、79銀を移動させるには68に成らせなければならないので(3)が必要となり、この成銀の存在によって手順がかくも「複雑化」したわけです。79金→79銀の変更は「ちょっと」には違いありませんが、その影響は甚大でした。

具体的に検証してみましょう。◎49歩の所で47金、58玉としてしまうと68歩が打てません。ここは玉を七段目に置くため、49歩、57玉としてから47金、67玉と進める必要があります。この49歩を打つため、①の金は39まで移動させなければならなかったわけです。●79歩についても同様のことが言えます(最初の▲79歩では、そもそも77金、68玉自体が不可能ですが)。それにしても、先に打った49歩・79歩が後で邪魔駒となり、それを48歩・78歩と突き捨てる手まで入ったのは虫がよすぎます。歩一式を使い切った詰上りもまるで謎えかのたようで、本当にうまく行ったものです。解答しなかった方もぜひ本作を並べて、その手順の妙を味わっていただきたいと思います。

たくぼん

折り返し部分の手順が素晴らしい。また収束で受方金を69→68→78→69と回転させる手順も上手く出来すぎでしょう。収束飛を取る順を本筋と思ったのが運のつき。手は狭そうに見えるのに大苦戦でした。

■ 41-04 小林看空 協力詰 261 手「輪廻」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
と	銀	金	と	金	金	金	銀	と	三
	香	歩		香	歩	歩	歩	歩	四
ス									五
角	桂	桂	桂	歩			桂	と	六
と	歩	銀	飛	歩	銀	王	歩	と	七
	香	歩	歩				香		八
王									九

持駒 なし

- 98 と 89 玉 99 と 79 玉 89 と 69 玉
- 79 と 59 玉 69 と 49 玉 59 と 39 玉
- 49 と 29 玉 39 と 19 玉 18 と 同玉
- 17 と 同玉 16 と 18 玉 17 と 19 玉
- 18 と 同玉 29 と 17 玉 18 と 16 玉
- 17 と 25 玉 16 と 35 玉 25 と 45 玉
- 35 と 55 玉 45 と 65 玉 55 と 75 玉
- 65 と 同玉(44 手目)
- 64 と 55 玉 65 と 45 玉 55 と 35 玉
- 45 と 25 玉 35 と 15 玉 25 と 16 玉
- 15 と 17 玉 16 と 18 玉 17 と 19 玉
- 18 と 29 玉 19 と 39 玉 29 と 49 玉
- 39 と 59 玉 49 と 69 玉 59 と 79 玉
- 69 と 89 玉 79 と 98 玉 89 と 97 玉
- 98 と 96 玉 97 と 85 玉 *94 銀生 同と
- 96 と 75 玉 85 と 65 玉(90 手目)
- 75 と 55 玉 65 と 45 玉 55 と 35 玉
- 45 と 25 玉 35 と 15 玉 25 と 16 玉
- 15 と 17 玉 16 と 18 玉 17 と 19 玉
- 18 と 29 玉 19 と 39 玉 29 と 49 玉
- 39 と 59 玉 49 と 69 玉 59 と 79 玉
- 69 と 89 玉 79 と 98 玉 89 と 97 玉
- 98 と 96 玉 97 と 95 玉 ◎94 と 85 玉
- 96 と 75 玉 85 と 65 玉(136 手目)
- 75 と 55 玉 65 と 45 玉 55 と 35 玉
- 45 と 25 玉 35 と 15 玉 25 と 16 玉

- 15 と 17 玉 16 と 18 玉 17 と 19 玉
- 18 と 29 玉 19 と 39 玉 29 と 49 玉
- 39 と 59 玉 49 と 69 玉 59 と 79 玉
- 69 と 89 玉 79 と 98 玉 ●89 と 97 玉
- ▲98 歩 96 玉 97 歩 85 玉(176 手目)
- 95 と 75 玉 85 と 65 玉 75 と 55 玉
- 65 と 45 玉 55 と 35 玉 45 と 25 玉
- 35 と 15 玉 25 と 16 玉 15 と 17 玉
- 16 と 18 玉 17 と 19 玉 18 と 29 玉
- 19 と 39 玉 29 と 49 玉 39 と 59 玉
- 49 と 69 玉 ★79 と 同馬 59 と 78 玉
- 69 と 89 玉 79 と 98 玉 89 と 97 玉
- 98 と 96 玉 97 と 85 玉(222 手目)
- 96 と 75 玉 85 と 65 玉 75 と 55 玉
- 65 と 45 玉 55 と 35 玉 45 と 25 玉
- 35 と 15 玉 25 と 16 玉 15 と 17 玉
- 16 と 18 玉 17 と 19 玉 18 と 29 玉
- 19 と 39 玉 29 と 49 玉 39 と 59 玉
- 49 と 69 玉 59 と 78 玉 ※69 角 89 玉
- 78 角 79 玉 69 と まで 261 手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			金	金	金	金	銀	と	三
	香	歩		香	歩	歩	歩	歩	四
									五
	桂	桂	桂	歩			桂		六
	歩	銀	飛	歩	銀	王	歩		七
	香	角	歩	歩			香		八
		王	と						九

持駒 なし

作者一何とかもう1回転近くいきました。命名はやはり『輪廻』でしょうかね。

☆元の図から 30 手余り手数が伸びました。命名は黒川一郎氏の普通煙と重なるのがちょっと気になったのですが……。ルールも異なるし、そこまで拘らなくてもいいんですかね。

隅の老人B一詰手数は 261 手とある。ともかく追っかけようで解図開始。表題は「輪廻」、なるほど、成る程。幾度、盤面を回ったのかな？です。

☆99・19・15・95を頂点とする長方形の辺上をと金に追われた玉が周回します。

① [初手～44手目]

97とにより、左回り3/4周
(途中17～15のと金を消去)

② [45手目～90手目]

64とにより、右回り1周
(途中*94銀生、同とが◎94とへの伏線)

③ [91手目～136手目]

②と同じと金により、右回り1周
(途中◎94とが後につなぐ伏線)

④ [137手目～176手目]

③と同じと金&◎94とで得た一步▲により、
右回り7/8周
(途中まで玉を追ったと金は●89に残留)

⑤ [177手目～222手目]

94とにより、右回り1周
(途中●89とを★79に活用し、78馬を入手)

⑥ [223手目～最終手]

⑤と同じと金により、右回り3/4周
(収束では入手した角を※69に打ち78に活用)

①+④+⑥でほぼ2周半、②③⑤を加えると、
全部で5周半した勘定になります。

占魚亭一易しいながらもちょっとした考え所があり、と金で玉を追いつのが楽しかったです。

☆途中、と金のバトンタッチや78馬入手を可能にする伏線手なども入り、単調さを補うアクセントとなっています。

七郎一輪廻転生、なぜか敵方の角として生まれ変わる78馬。9筋でのと金のバトンタッチに2周を要する手順が巧妙ですが、強力な角が手に入っても使い所がなくて、1周余分に回る収束も楽しめます。

☆最後は受方の78馬が攻方の78角に変わって、詰み上がります。画竜点睛！

たくぼん

こちらは流れで進められるので解きやすかった。しかしこの長手数を成立させているパーツの組み合わせが秀逸。金追いの集大成といった作品だと思います。

【総評】

七郎一今回は自作や、見せて戴いたことのある作(41-04)のおかげで楽をさせて貰いました。全題未見だったら結構大変だったと思います。

☆七郎さん作が最大の難関でした。看空さん作は、手数割に難しくはなかったと思います。七郎さんのは、唯一の手順がどうして成り立つのかが、今もって不思議なくらいです。

隅の老人B-4題を解くのに幾日要したのやら。一番長かったのは③の七郎さん。年金生活、お金は無いが、暇な時間だけはタッピーとあります。作者の皆さん、難問を有難う、感謝です。

☆ご解答をいただいた、隅の老人Bさんにも感謝です。03の正解、お見事でした。

たくぼん

いつのまにか客寄せ担当になってしまいました(笑)次はトリになれるよう頑張ります。

【追記】

☆たくぼんさんが前回の締切前(到着順は七郎さんの次)に解答を送られていたそうですが、メールの不具合のせいか、受信できていませんでした。全題正解者にたくぼんさんを追加するとともに(03の実質正解者は2名)、たくぼんさんの短評・総評を掲載していただきます。臨時の措置で申し訳ありません。(酒井)

★各題最後に追加させていただきました。(たくぼん)

推理将棋第 8 3 回出題解説

担当：NAO

出題：平成 26 年 10 月 24 日
 解答締切：平成 26 年 11 月 20 日

2 カ月続けて余詰を出してしまいましたが、2 カ月連続の解答 20 名突破が救いです。担当から出題した初級は、さくっと解かれた方と結構悩まれた方に二分されました。意外にも難しいと感じられた方には好評でした。

8 3-1 初級 NAO 作 縄の端に鐘を掛けて 9 手

「さっきの将棋どうだった？端の手を指す所だけ見たんだけど」
 「結局 9 手で詰んだよ。7 筋に金を打った手が勝敗を分ける一手だったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 9 手で詰んだ
- ・ 端の手があった
- ・ 7 筋に金を打った

出題のことば (担当 NAO)

有効な金の打ち場所を推理しよう。

追加ヒント

7 手目に打った金を 9 手目に寄って詰ませます。

推理将棋 8 3-1 解答

▲ 7 六歩 △ 5 二玉 ▲ 3 三角不成 △ 5 一金右
 ▲ 同角不成 △ 9 二飛 ▲ 7 二金 △ 8 二銀
 ▲ 6 二金 まで 9 手。
 詰上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科			角	香	馬	科	皇	一
飛	馬		金	王			馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

条件

- ・ 端の手があった (6 手目 9 2 飛)
- ・ 7 筋に金を打った (7 手目 7 2 金)

7 筋の金打ち。金を取るができるのは 5 手目以降なので金を打つのは 7 手目か 9 手目か。実は 9 手目に 7 筋に金を打って詰ます形はありません。そこで 5 手目に金を取って 7 手目に 7 筋に金を打つ形を考えます。

ここで、予備知識として 7 手詰の基本パターンをおさらいしてみましょう。金打で詰むのは、一つは角不成で金を取るパターンの 2 通り

▲ 76 歩 △ 52 玉 ▲ 33 角不成 △ 51 金左 ▲ 同角不成 △ 32 銀 ▲ 42 金 まで

▲ 76 歩 △ 52 玉 ▲ 33 角不成 △ 51 金右 ▲ 同角不成 △ 72 銀 ▲ 62 金 まで

もう一つは角成か馬で金を取るパターン

▲ 76 歩 △ 42 金 ▲ 33 角不成 △ 72 金 ▲ 42 角成 △ 61 玉 ▲ 52 金 まで

これが一例で、3 手目成生と 62 玉 72 金の組み合わせで 6 通り

前者は 42 金か 62 金、後者は 52 金がそれぞれの最終手となります。7 筋の金打に連携するなら、前者の 51 角不成で金を取って 62 金で詰む筋、すなわち 7 筋に金を打って 62 金と活用する手順が浮かびます。「▲ 76 歩 △ 52 玉 ▲ 33 角不成 △ 51 金右 ▲ 同角不成 △ **** ▲ 7* 金打 △ **** ▲ 62 金 まで」

62 金に繋がる 7 筋の金打の場所は 72 か 73。73 に金を打つ順は △ 74 歩が必要で端の手が入る余裕がありません。では、72 金打はどうか。最終 62 金で詰ますには飛銀の効きを外す必要が

ありますが、端の手の入る 92 飛～82 銀がびったり。最終 4 手が「△92 飛 ▲72 金 △82 銀 ▲62 金」に確定します。

7 筋に金を打って 9 手で詰む手順は全部で何通りあるでしょうか？

実は 65 万通り以上ある 9 手詰全手順の中でたったの 5 通りだけなんです。7 手目に 72 金打の筋が 4 通りと 73 金打の筋が 1 通り。各手順は紹介しませんので興味のある方はご研究ください。

それではみなさんの短評をどうぞ。

ミニベロ「9 手で知らない順はないはずなのに、結構考えさせられた。シンプルで巧妙な条件付けの秀作だと思います」

■ベテランのミニベロさんを考えさせられれば、出題は成功です。

まさ 「7 手+2 手のパターンと気づけば簡単」

■そういえば mixi で、まささんは、とある問題提起の例題にこの 9 手詰と同手順の条件付けを取り挙げておられましたね。

DD++ 「ある人にとっては 7 筋金では役に立たないのでそこから 6 筋へ寄ると見抜ける大ヒント。またある人にとっては 7 筋に意識が行ってしまうので作意から遠のく畏ヒント。はてさてどちらが多数派でしょうか」

■畏のつもりは全くありません。ヒント条件に間違いないうもり。でしたが・・・

斧間徳子「7 手詰を 9 手詰に延ばすことによって条件を簡素化する好例ですね」

■創作時に 7 手詰手順は意識せず、7 筋に金打が入る 9 手詰から絞りこんだんです。結果的に 7 手詰パターンの応用になりました。

孔明「詰み形が見えず、端の手を考えていたら突然解けました。▲7 二金～▲6 二金という迂回が入るのは想定できませんでした」

■最終手で 7 筋に打つ手を考えると途方に暮れ

てしまいます。

波多野賢太郎「初級ということでしたが、私にはけっこう難しかったです。最初、端の手は先手の手かと思い込んでいました。9 二飛から 8 二銀として、打った金を 6 二に動かすのはうまい活用だと思いました」

■7 筋に意識が行きましたか。

飯山修「初級としてはかなり難しい」

■7 手詰パターンを意識したかどうかで、難易度が分かれました。

加賀孝志「受け方の手に味がある」

■62 金を有効手にするための協力手順でした。

Pontamon「直接の▲62 金ではなく時間調整の 7 筋打でしたか。62 角成だと端の手を指す暇がなくて、さくっとは解けませんでした」

■42 銀+62 銀の筋だと端の手が余裕がないですね。

小山邦明「後手の最初の手の玉の移動になかなか気付かず苦戦しました」

■2 手目 52 玉は、5 手目に金を取る基本手順の一つです。

諏訪冬葉「『7 手目に金を打って動かす』も『92 飛車-82 銀で飛車の利きを消す』も考えていたのに『金を 51 で取る』が全く浮かばずに 3 週間考えました」

■思わぬ難問になってしまったようです。7 手詰パターンはいつでも引っ張りだせるようにしないと。

はなさかしろう「ミステリアスなタイトルですね…訪いを告げる礼儀正しい刺客といったところでしょうか。実に巧妙な遊び手条件で、丸二日悩んでしまいました。△92 飛～82 銀は本命▲96 歩～97 角に次ぐ対抗の手順だったのですが、なかなか詰み形が見いだせず、一旦途中下車して中級にチャレンジするはめに。再考でよ

うやく発見しましたが、こんな 7 手あったっけ、
ということで、7 手 11 パターンのおさらいを
久々にやってみたりしました」

■はなさかさんを 2 日間も楽しませれば大成功。
意味深に思わせるタイトルには深い意味はあり
ません。日本書紀の解説文からの引用でした。

隅の老人 B 「6 手目が推理将棋ならではの奇
妙？な好手。なるほど、なるほど」

■92 飛が 82 銀を可能にする奇手でした。

渡辺 「『73 に金があったのを見たよ』という作
品を作ったのを思い出しました」

■渡辺さんは本題と同じ手順で条件の異なる問
題も作られてました（業界記号 mixi99-9-81 で
わかりますね）

占魚亭「詰み形が予想できなくてギブアップ寸
前。51 金右が全く見えてませんでした」

■詰形が見えないと、7 手詰パターン手順も思
考の外になりますね。

たくぼん「92 飛から 82 銀の複合順が妙手です
ね」

■72 金から 62 金の時間差攻撃とマッチしまし
た。

S.Kimura 「端の手と 7 筋の金を両立させる手
順がなかなか見つかりませんでした。正解に近
い形まで行っていたのですが、ヒントを見るま
で、92 飛、82 銀の手順が浮かびませんでした」

■82 銀を可能にする 92 飛と 62 金と活用する
ための 72 金の組み合わせは意外と見えにくか
った。

鈴木康夫 「『端の手が有った』で真っ先に浮か
んだのが 92 飛、82 銀だったので瞬殺でした」

■ひとつ前の S.Kimura さんの短評と正反対の
感想ですね。詰形が見えればすぐわかる。

変寝夢 「推理用 VM（自作ソフト）での解答で

す。追加条件として 5 手目までの金取り、そし
て 9 手中 8 手以上は 4 段目より上の着手（これ
が強烈）にして、80 万局面 1 分半ほどでした。
端の手（1 条件）で 92 飛、82 銀（2 手以上）
決まるのはうまい」

■推理将棋の解図ソフトを作成されているのは、
鈴木さんと変寝夢さんの二人だけでしょうか。
余詰を二回連続出題してしまった担当は、ソフ
トの検討力に期待してます。

はらたつ 「これはすんなり」

■62 金までの 7 手詰が意識できればすんなり
と。

正解：20 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん
加賀孝志さん 孔明さん 小山邦明さん 鈴木
康夫さん 隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん たくぼんさん DD++さん 波多
野賢太郎さん はなさかしろうさん はらたつ
とさん 変寝夢さん Pontamon さん まささ
ん ミニベロさん 渡辺さん

83-2 中級 ミニベロさん作
三捨利警部の推理・凶器は隅に 11 手

警官「警部起きてください、11 手詰の事件で
す」

警部「冬眠中なんだがな。どれ」

警官「8 手目は飛車で端の手だと判明していま
す」

警部「それだけでは推理のしようがないよ」

警官「とどめの凶器は、隅の空間に着手されて
います」

警部「隅の？ それじゃ犯人は隅の老人さんだ
な」

警官「警部、真面目にやってください」

警部「すまんすまん。だが 8 手目の謎は解けた
よ」

さて、どんな手口だったのでしょか。推理し
てみてね。

（条件）

- ・11手で詰んだ
- ・11手目は隅の空間への着手(つまり、駒を取る手は×)
- ・8手目は飛車で端の手

出題のこぼ(担当 NAO)

隅に空間を開ける1手を推理しよう。

追加ヒント

8手目は12飛。とどめは99の隅に角打ち。

推理将棋 83-2 解答 担当 NAO

▲7六歩 △3四歩 ▲2二角成 △4二玉
 ▲2一馬 △3三玉 ▲9八香 △1二飛
 ▲4三馬 △2二玉 ▲9九角 まで11手。

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒	香		香	駒		皇	
二								王	飛	
三	歩	歩	歩	歩	歩	馬		歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八	香							飛		
九	角	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 桂歩

条件

- ・11手目は隅の空間への着手(99角)
- ・8手目は飛車で端の手(12飛)

「とどめは隅」がテーマの作品。

4カ所ある隅のうち、最も使えそうなのは11。次が99と91。残りの19は使いにくそう。各隅で使える駒は、11か99なら角、91なら飛と決め打ちできます。作意は"とどめは11角"と見せかけて実は"とどめは99角"でしたが、作者名から"隅とは11以外"と裏読みされた強者もおられました。

初めに作意の11手目99角で詰ます手順から解説します。

必要な手は先後それぞれ、

先手：76歩～22角(成)～角(馬)の筋をそらす手

～98香～99角打、+α；

後手：34歩～42玉～99角筋に入る玉の手(33～44か22)～端飛車(12,92)

先手が角(馬)筋をそらせながら後手玉が99角の筋(11～88)に入るのは連携がよさそうです。手順を整理すると

「▲76歩 △34歩 ▲22角(成) △42玉 ▲21馬/▲31角(馬) △33玉 ▲98香/▲α
 △12飛/△92飛 ▲98香/▲α △β ▲99角まで」

ここで角筋の33玉は、43歩があるため33のままでは詰まないことに着目すると、"44玉と上がる"あるいは"43歩を消す"のいずれかが必要です。

44玉を角筋で詰ますのは短編推理将棋でよく見る形。ただし、35,45,54の退路塞ぎが難しく角を使わないと3手ぐらいかかりそう。本条件では先手の余裕手αが1手だけなので44玉を11手目99角で詰ますのは困難です。

43歩を消すのはどうか。22角成～21馬～43馬で可能ですね。玉は99角筋のまま33から22に移動し、12の退路塞ぎは12への端飛車がぴったり。8手目12飛と10手目βが22玉に確定。そして99隅に空間を空ける98香は玉が33にいる7手目に着手します。

5手目以降「▲21馬 △33玉 ▲98香 △12飛 ▲43馬 △22玉 ▲99角まで」

次に、"11角で詰ます順"はないのか。補足します。

最終玉位置を33とすると、必要な手は先後それぞれ、

先手：76歩～22角(成)～21馬か31馬～11馬か11角打、+α；

後手：34歩～42玉～33玉～12香、+β。

ここでα、βは未確定ですが、33玉が詰むには24,42への退路塞ぎと22への飛銀の利きを消す手が必要になります。たとえば、前回出題「82-2 端銀戦法」の手順「▲76歩 △34歩 ▲22角不成 △42玉 ▲31角成 △33玉 ▲15銀 △42金 ▲22角 まで9手」をアレンジして「▲76歩 △34歩 ▲22角不成 △42玉 ▲31角成 △33玉 ▲15銀(=α) △42金(=β) ▲XXXX △12香 ▲11角 まで11手」のような手順が考えられます。この例ではαが15銀(25,35)、βが42金(52,62,72金銀)になります。ところが、後

手の「8 手目端飛車」着手の余裕がありません。
βを 8 手目 92 飛に変更するとどうでしょう。
先手に 1 手余り手がありますが、飛車の横利きを止める手段はなく、結局 11 角で仕留めることができないのです。

最後に、"91 飛で詰ます順"はどうか。修正前の
"8 手目は飛車"では、はてるま手筋の応用で詰む余詰手順がありました。

・修正前の「8 手目は飛車」で"端の手でない飛車"の余詰手順は次の通り。

▲76 歩 △54 歩 ▲44 角 △52 金右 ▲71 角成
△42 金上 ▲81 馬 △72 飛 ▲同馬 △92 香 ▲
91 飛まで（後手 2,4,6 手目の手順前後、42 の
金銀非限定あり）

2 段目で飛を取らせ 81~61 を通す 72 飛~同
馬がびったりです。

・「8 手目は飛車で端の手」の修正により 91 飛
の筋はなくなりました。表現上は"端の手"を追
加するだけのシンプルな変更でよかったのですが、
12 飛を明かすようで味消しにならないか心配
しました。しかし、単なる余詰め消しでなく、
ほどよいヒントになったこともあって巧い修正
となりました。

ミニベロ(作者)「9 一飛の筋は消したつもりだ
ったんだけど、7 二飛には参った。申し訳あり
ません」

■余詰指摘は DD++さんとはなさかしろうさん
からいただきました。出題直後に連絡いただいた
ので影響が少なく助かりました。担当は本作
を解いてみましたが、種々手を尽くした後、作意
解が先に見えたので 91 飛の筋には気づきませ
んでした。検討力不足をお詫びします。

それではみなさんの短評をどうぞ。

まさ 「雄大な手順」

■7 手目 98 香~8 手目 12 飛が雄大さを感じさ
せます。

DD++ 「いかにも 11 角で詰ませたい条件だか
らこそ本命 99 角対抗 91 飛で挑戦。ところがそ
れが当たっていたのが裏目に出て、11 角を読め
ば真っ先に思いつく 21 馬 33 玉を見落として
散々でした」

■それに続く 43 馬~22 玉とセットで考えない
と見落としますね。

斧間徳子 「とどめは 11 角打か 11 馬と思って
苦戦。99 角打はこの少ない条件では手順を限定
できないと思って深く考えなかったのですが、
8 手目端の飛車という条件だけで限定できてい
るのに感心しました」

■形だけなら 12 飛の代わり 12 香もあります
が、1 条件で限定できないんです。

波多野賢太郎「この問題が今回では一番悩みま
した。原因は、最後は 1 一で詰みなんだと思い
込んでしまったからです。そのため 8 手目の飛
車の手の意味もなかなか分かりませんでした。
まさか 9 九だとは…。8 手目に端の条件がつか
ないとどんな余詰があるのかは考え中です」

■ヒント前に 99 角を発見できれば、上級の実
力十分です。

孔明「始めはトドメを▲1 一角と想定してまし
た。すると▽1 二香と飛車の横利きを止める手
が必要で端に飛車を寄る手が指せずダメ。次に
▲9 九角を想定してやってみると今度は 4 三の
歩によって最後に合い駒ができてダメ。
半ば諦めた状態でヒントを待っていました。ヒ
ントの▽1 二飛が何故▽9 二飛じゃないのかを
考えていたら詰み場所が 3 三ではなく 2 二だと
わかり、同時に▲4 三馬を発見してようやく解
けました」

■ほどよいタイミングでのヒント投入でした。

飯山修 「5 手目銀を取るか桂を取るかが岐路で
あるが隅は 11 だと思っからどうしても銀に手
がかかる」

■31 馬で 42 の退路も塞ぎたくなくなります。

加賀孝志 「うまくヒントで手を限定している」

■ヒント以前の条件だけで限定できています。
ヒントは解答への助け船ですが、もしヒントで
限定できていない手順があれば余詰になります
のでご連絡いただけると幸いです。

Pontamon 「ヒントを見ても手筋が浮かばず一番難しかったです。(91 角打ちだと勘違いしたせいもありますが) 8 手目を 92 飛で、22 飛の無駄合いができる手順は見えるのに、残り手数の変化が何故見えない。トホホ」

■33 玉に 11 角で詰ませる形。ほとんどの皆さんが挑戦されて失敗したはず。

小山邦明「収束の形が予想しにくい難問でした」

■12 飛～22 玉の形が不思議です。32 と 21 に効かず 43 馬が光っています。

諏訪冬葉「ヒントの飛車の位置から玉の位置は 22 と予想。邪魔になる 21 桂と 43 歩を消すことを考えたら初級より簡単に解けました」

■端の手が 12 飛と分かれば簡単でした。

はなさかしろう 「1 九はまず無理として、他の 3 ヲ所はいずれもあと一步の順がたくさんあり、的が絞れなかったので、裏推理スイッチ ON。6 手目までの進行は大本命ですが、▲9 九角までの形は△4 四玉との組み合わせばかり考えており、▲4 三馬一△2 二玉と体を入れ替え、飛車の手を活かす順はなかなか浮かびませんでした」

■条件だけ見ると無駄手のような端飛車ですが、玉退路を塞いでおく手順でした。

隅の老人 B 「月初めに解いて、締め切り間近の 19 日に感想書き。どこで苦労したのかを忘れちゃった」

■容疑者扱いされてしまいました、それも忘れてくださいね。

渡辺「最終手の位置を作者名から推理するのは反則でしょうか？作者名が伏せてあったら苦労したかも」

■作者ミニベロさんなら最終手が 11 角でないとの読み。もちろん反則ではありません。鋭い読みでした。

占魚亭 「99 角迄と決め打ちしたのでそれ程悩

みませんでした。21 馬～98 香の 3 手がポイントですね」

■8 手目 12 飛と 11 手目 99 角を可能にする準備でした。

たくぼん 「最後まで残ったのがこれ。44 玉型ばかり考えてました。仕事でフェリーに乗っているときに 12 飛の意味を考えてピンと閃きました」

■移動中は閃きやすい。でも、車を運転するときは解図禁止です。

S.Kimura 「11 か 91 に角を打つことばかり考えていたので、ヒントなしで 99 角は思い浮かびませんでした」

■12 飛はともかく、99 角を明かすのはサービスすぎかと思いましたが、そうでもなかったんですね。

鈴木康夫 「最終手 99 角で詰んだら面白いと思いましたが、現実的ではないと捨てたためヒントを見るまでは手も足も出ませんでした」

■中級でも難問になるときもあります。ヒント待ち定跡でいきましょう。

正解：19 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん
加賀孝志さん 孔明さん 小山邦明さん 鈴木康夫さん 隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん たくぼんさん DD++さん 時風瑞季さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん Pontamon さん まささん ミニベロさん 渡辺さん

8 3-3 上級 はなさかしろうさん作 夜の長い季節は端で 12 手

「12 手で詰んだって？暦好きの君らしいね。それで、どんな将棋だったの？」

「最初の 3 手と最後の 3 手が端の筋の手で、それから…」

「ちょっと待った。つまり、1、2、3、10、11、12 手目が端の筋の手だったんだね？」

「そう。それで、その6手は互いに異なる段の手だったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・12手で詰んだ
- ・最初の3手と最後の3手は互いに異なる段の端の筋の手

出題のことば (担当 NAO)

詰みに繋がる伏線を推理しよう。

追加ヒント

先手玉は98で詰まされます。序盤にその準備を。

推理将棋 8 3-3 解答 担当 NAO

▲9六歩 △1二香 ▲9七桂 △3四歩
▲6八玉 △7七角不成 ▲7八玉 △8八角不成 ▲8九玉 △1一角打 ▲9八玉 △9九角成 まで12手。

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	銀	桂	角		香
二		飛								香
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六	歩									
七	桂	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八	王							飛		
九	銀		銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 なし

条件

- ・最初の3手と最後の3手は互いに異なる段の端の筋の手

(▲96歩 △12香 ▲97桂 ~△11角打 ▲98玉 △99角成)

「段が異なる端の着手」がテーマの作品。

序盤の3手と最後の3手で端の手が6回もあります。端の手は攻防手ですが、単純に端歩を突

いていっても失敗します。

はじめに、最終3手が端の手なので、玉が端かその近くで詰むことを想定し、端への玉移動を考えてみましょう。59玉が1筋か9筋の端へ移動するのに4手必要ですが、端の手のうち11手目は端玉に使うとするとそれ以外の玉移動の手が3手。先手の1,3,11手目が端の手とすると端以外の残りの着手が3手だけなので端への移動が不可能にも思えます。なぜなら、玉が動くには玉自身の3手に加えて途中の壁駒(歩桂角飛のいずれか)をどかす手が1手必要だからです。

ここで、壁駒をどかすのに端の手を使えないか、推理を働かせます。

1手目と3手目に端の手を使って壁駒をどかす筋は、次の通り

- ・1筋：16歩~17桂、(16歩~)18飛
- ・9筋：96歩~97桂、96歩~97角、98香~99角

次に、後手から端の手を使う攻めを考えてみましょう。先手の玉移動と干渉せずに攻め駒を準備する必要があります。角を使いますが、2手目が端の手の後は、必然手4手目34歩、その後の2回の着手だけ角を端以外の攻めに活用できますので、角を取りながら77角~88角の2手。残りは2手目と8手目と10手目の端の手になります。

- ・4手目以降 34歩~77角~88角

ある程度絞れましたので組み合わせさせてみましょう。22~88角筋を活用できそうなので先手の玉は9筋側に移動。角筋を避ける必要があります、壁駒をどかす手順は"96歩~97桂"に限定されて先手の着手が決定します：96歩~97桂~68玉~78玉~89玉~98玉

また、異なる段の指定がありますので、とどめの1手は角に紐を付けて12手目99角成。遡って10手目には、角に紐付ける端の手が必要で11角打。更に遡って2手目は11に空間をあける端の手12香。後手の着手も決まりました：12香~34歩~77角~88角~11角打~99角成

- ・最初の3手：▲96歩 △12香 ▲97桂
- ・最後の3手：△11角打 ▲98玉 △99角成

最初と最後の中間、5 手目以降「▲68 玉 △77 角不成 ▲78 玉 △88 角不成」のように、一瞬王手がかかりますが停滞せずに手が繋がっていきます。全手順が明らかとなって序盤の3手で伏線を敷いていることがわかりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

はなさかしろう（作者）「別の手順の条件付けをしている時に出てきた余詰筋を問題に仕立てました。端への着手タイミングを調整し、筋条件だけで行けたかと思いきや、前担当の DD++ さんから▲6 八玉型の余詰指摘をいただき、失意のまま半年以上お蔵入りに。△9 六馬を防ぐだけのために複雑な段条件を導入せざるを得なかったのが残念です。解図は2手目から裏推理していただければ一瞬かもしれません」

■「異なる段」がない場合に生じる手順は一例として

▲96 歩 △92 香 ▲97 桂 △34 歩 ▲76 歩
△88 角成

▲68 玉 △87 馬 ▲58 金右△96 馬 ▲98 香
△95 角まで。

6 段目着手が初手と 10 手目の 2 回になります。「異なる段」条件が加わってミステリアスな推理問題が完成しました。

ミニベロ「理屈で考えれば、端から攻めると必ず段が重複するので不可能。これに気がつかないと大難問になってしまう。1 2 手が一筆条件ですべて限定されているとは感心しました。私好みの秀作です」

■序盤と終盤の手を一つの条件で指定しているのがすばらしい。

まさ「玉が上部に出てくる余裕がない。では2手目は何が有効なのかと考えたら作意が見えた」

■2 手目の有効手探しが早道でした。

DD++ 「1-3 手目に手順前後がないなら端桂が怪しい、貴重な 5-7-9 手目は玉を端へ近づけたい、多くの段の端に着手するなら 12 香 11 角を指せると嬉しい、あたりのわりと自然な内容を決め打ちしていけば実はけっこう素直でした。

でも 11 角が引くのではなく打つ手だった点は意外性充分」

■角のロケットエンジンをセットする手でしたね。

斧間徳子「後手が端歩をひたすら突いてくる順かと思ひこんでなかなか解けず。わずか1条件でこの手順を成立させるとは見事としか言いようがありません」

■少し考えて端歩では間に合わないことに気づきます。

孔明「ヒントから玉の移動に4手かかるので先手が自由に指せる3手は全て玉の移動そしてトドメは▽9 九角成(自由に指せる3手で取れる駒は角と歩だけ)というのがわかったんですが▽8 八角不成に▲同玉としないと9八にたどり着けないと思ひ込んでました。3手目に▲9 七桂とすれば8九の地点が空き、玉の移動経路にすればいいということに気付くまで時間がかかりました」

■地道な推理で、答えにたどり着いたようです。

波多野賢太郎「これだけの条件で手順が決まってしまうのが私にはちょっと驚きでした。しかも前後3手がすべて端で違う段という条件が美しくていいと思いました。後手の2手目が詰みにどう関わるのか悩みましたが、とりあえず先手は玉を端へ移動させないといけないので先手の手がある程度限定されて、それから後手2手目が閃いた感じでした」

■解説にもあるとおり、伏線の2手目は最後にわかります。

飯山修「直前ヒントの9 8で詰みはサービスしすぎのような気もするが11 手目9 8の着手と言ったらやはり玉しか考えないから同じですね」

■9 8だけでは未だサービス不足か、最終手も明かそうかと迷いましたよ。解答者により難しさの感触が違いますので。

加賀孝志「ヒントはくどくないほうが良い」

■難しく感じる方と易しく感じる方、個人差ありひとそれぞれです。易問と感じられればノーヒントでさくっと解いていただきましょう。ヒントは易しめにサービスします。

Pontamon 「中盤に端の手を指すのは禁じられていないので端の7段目の駒を8手目にとって使うのかと思ってドツボにハマりました。1筋の攻めで、△18飛、△19角に▲28銀の無駄合いができてしまう順はあったのですが…」

■異なる段条件があるので1回使うと同じ段が使えないですね。

小山邦明 「端でない先手の手順を限定するには玉の移動しかないと考えたのが正解でした」

■直感がさえてます。

諏訪冬葉 「ヒントから先手の5-9手目は玉移動。玉位置から最終手は99角成と予想しました」

■的確な推理手順でした。担当も推理しやすいヒントを心がけたいです。

隅の老人B 「2手目が10手目の伏線。解けて再度条件を読み直す、これでよし、よし」

■そのとおり。端の手パーツの組み合わせが見事にハマりました。

渡辺 「627189 うん大丈夫。前問がヒントですね。最終ヒント見ましたが、それでも難しい。玉頭でやりとりする手段が巧妙に防がれています」

■ヒントはもう少しわかりやすくしたかったが、匙加減がむずかしい。

占魚亭 「妙手12香。無駄手でないのが素晴らしい」

■無駄手の限定手でもおもしろいが、立派な伏線手でした。

たくぼん 「88ではなく89を通るのが鍵でしたね。昔似たような筋の作品を解いた記憶が役に

立ちました」

■11手以上になると玉移動のバリエーションもいろいろ増えてきます。

S.Kimura 「83-2を解いてから挑んだので、11角は想像できたのですが、無意味と思えた3手目が、玉の進路を開ける好手だったのは意外でした」

■繋げるため、先手側の伏線手。

鈴木康夫 「2手目が効果的な伏線になってますね」

■最後に2手目の謎が明らかにされました。

正解：18名

飯山修さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
加賀孝志さん 孔明さん 小山邦明さん 鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん たくぼんさん DD++さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん
Pontamonさん まささん ミニベロさん
渡辺さん

総評

ミニベロ 「せっかく秀作揃いだったのに、余話を出してすみませんでした」

■担当も検討力不足ですすみません。端特集で「端の手」とは、巧い修正でした。

まさ 「今回は巧妙かつダイナミックな作意を味わう、正統派のラインナップという印象でした」

■狙って選題した甲斐がありました。

DD++ 「端や隅が絡むと面妖な伏線手が登場しやすく、難しくなりがち。良作揃いなのに解答者が減ったりしないことを祈るばかりですね」

■確かに序盤の端の手は難問になりますね。解答者20名越えでほっとしています。

斧間徳子 「今月はいつもより骨はあったけど、

レベルの高い3作で楽しめました」

■推理将棋の醍醐味を楽しんでいただけましたか。次回も結構骨がありますよ。

孔明 「今回は初級も中級も難しかったです。現状では上級はとっかかりも掴めてません (-_-;)」
「(1時間後)連続メールすみません。上級はとっかかりも掴めないと書いた後に考えてたら解けてしまいました」

■一旦送信すると、頭がすっきりしてスイッチが入るのかも。

波多野賢太郎 「今回も相当悩みましたが、ヒントなしで解けたので自分としては上出来です。隅に打つ遠見の角はやっぱりインパクトがありますね」

■今月は難しく、ヒント前の解答は立派です。

Pontamon 「今月は難しく、中級、上級とも無駄合いのある手順しか思い浮かばず、必勝定跡のヒント待ちでした」

■行き詰まったときはしばらく寝かすのも一つの方法。

小山邦明 「端を条件に入れると、難易度が増すのでしょうか？今回はどれも大変すばらしい作品だと思いました」

■序に端の伏線手が入るのは、難問になりがちです。

諏訪冬葉 「今月はヒントに頼りすぎました」

■おおいに頼ってくださって結構です。

はなさかしろう 「今回は端がらみの遊び手(無駄手)条件特集ですね。遊び手が入ると手数から予想されるよりはシンプルな詰め上がりになるはずですが、遊び手条件は詰め形を推測するのに役に立てにくいため難しいかも。以前は特に、個人的に苦手感が結構ありました。作問の方では最近では心惹かれる手順を見つける度に既視感を感じてしまい、相当変な条件でも

ない限り自分が過去見たであろう範囲(本サイトとmixi)を検索するのですが…記憶があてにならず、もどかしいことが多いです」

■既視感のある手順、10手以下の短編だと先行作があるのはざらですが、12~15手ぐらいの手数だと返って既往手順かどうかの難しいですね。

隅の老人B 「明日出来る事は、今日はしません。そんな爺さんが締め切り間際の解答書き。街路樹の公孫樹は黄葉、そして落葉。これで今年の秋も去るか、です」

■時の流れは速く、今日やらなければならないことを明日に積み残す日々が続いています。うらやましい限り

たくぼん 「3作ともしっかりと狙いがあり素晴らしい作品群でした」

■ありがとうございます。このような感想をいただけるとうれしいです。

S.Kimura 「今回は難しく、全問ともヒントを見て何とか解くことができました」

■次回も難問がありますが、ヒント使って解いてくださいね。

はらたつと 「1問だけ送ります。会議中ヒラメキ作戦失敗！ 答え楽しみにします」

■会議中に閃かずアイデアが出ない・・・よくあることです。

推理将棋第83回出題全解答者： 21名

飯山修さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
加賀孝志さん 孔明さん 小山邦明さん 鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん たくぼんさん DD++さん 時風瑞季さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん
はらたつとさん 変寝夢さん Pontamonさん まささん ミニベロさん 渡辺さん

フェアリー版くるくる作品展 1 解答発表

たくぼん

分かりやすく楽しめる内容にヒント付で出題でしたが、解答者3名とは残念な結果でした。解答頂きました橋本さん、DD++さん、占魚亭さんありがとうございました。やっぱりルールと手数で敬遠されたのだろうか（泣）なお投稿があり次第順次この作品展は開催しますのでよろしくお祈いします。

解答者（全題正解） 橋本孝治、DD++、占魚亭

【ばか自殺スタイルメイト】

先後協力して後手玉に王手を掛けながら攻方を合法手のない状態にする

くるくる 1

神無太郎作 ばか自殺スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			科						二
			龍						三
			科						四
						王			五
									六
					王				七
					龍				八
									九

持駒 なし

47 龍 46 桂 56 龍 同桂 65 龍 55 桂
54 龍 同桂 まで 8手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				科					四
				科	王				五
				科	科				六
				王					七
									八
									九

持駒 なし

★記念すべき1発目は太郎さんの空中によるばか自殺スタイルメイト合駒で2枚の桂を出現させて空中4桂によるスタイルメイトです。

橋本孝治

中段では双玉でも密集型の四桂詰はできない、密集型でなければ可能…と思っていたのですが、「詰」ではなく「スタイルメイト」なら密集型の「四桂の宣告」ができるんですね。「くるくる」というヒントがあったので他の筋を考えずに済みました。

★ たしかに密集型では自殺詰はダメですね。（お恥かしい話、考えた事ありませんでした）スタイルメイトなら可能というケースは他にもいろいろあるかもしれませんね。

DD++

縦横で同じことを繰り返して玉の前に桂を並べる。趣向と言われているなければ手こずったかも。

★詰上がりが分かっていたら簡単に解ける本作でもノーヒントであれば慣れていないと難しいはず。本作品展ではヒントも駆使してくるくる級として出題予定です。

占魚亭

ウォーミングアップにぴったり。テトリスのブロックっぽい詰上り形。

くるくる 2

神無太郎作 ばか自殺スタイルメイト16手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								科	二
								飛	三
									四
									五
									六
									七
								王	八
								科	九

持駒 金4

97 金 同玉 17 飛成 27 桂 96 金 同玉
16 龍 26 桂 95 金 同玉 15 龍 25 桂
94 金 同玉 24 龍 同桂 まで 16手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
王							科		四
							科		五
							科		六
							科		七
	卒						王	皇	八
									九

持駒なし

★ ルール名と手数を見ただけで敬遠してしまいそうな作品ですが、金を打って玉をずらして龍で王手→桂合の流れを繰り返し気がつけば桂の柱が出来上がり。くるくる1より分かりやすい手順ですが、ノーヒントならいろいろな筋を読んでしまうこと間違いなし。たくさんの人に楽しんで貰える事を期待しましたが、なかなかうまくいきませんね。演出方法は今後の課題ですか。

橋本孝治

瞬く間に桂のタワーができる「一夜城」ならぬ「一分城」。4枚の桂のうち24桂だけが玉の逃亡阻止に関係しておらず、ちょっと残念。こちらにも「くるくる」という看板がなければ、難しい紛れ筋を読んでしまうところ。

DD++

まさにくるくる。88歩は何かの余詰防止だと思うんですが、何だろう。

★88歩が無いと以下の様な順で余詰との事です。97金 同玉 17飛成 87飛 88金 86玉 16龍 26金 77金 同玉 27龍 同角生 78金 同玉 89金 同飛成 まで 16手 この順は読む人いないでしょうね。

占魚亭

くるくるらしい手順で楽しかったです。

★投稿は随時受け付けております。簡単なものでも笑えるような内容でも結構です。気軽な投稿お待ちしております。

「西暦2015年と平成27年にちなんで、27と四則演算を使って2015を作れ。ただし、使う27の個数はなるべく少なくすること。」

以前、KAMINA PUBLICATIONSで懸賞出題したものと同じネタです。

とりあえず作れることはすぐわかります。27をn個足して27で割ったものをF(n)と表すことにすれば、 $F(n) = n$ なので、

・ $F(2015)$
 が解のひとつになります。このとき27は2016個使用（F(n)はn+1個の27を使用）していることになって、いかにも使いすぎです。

そこで $2015 = 5 \times 13 \times 31$ に注目すれば、

・ $F(5) \times F(13) \times F(31)$
 とできます。このときの27の使用個数は、 $6 + 14 + 32 = 52$ 個。

さらに、13と31はもう少し工夫して、
 $13 = (27 - 1) / 2 = (27 - F(1)) / F(2) \dots 6$ 個
 $31 = 27 + 4 = 27 + F(4) \dots 6$ 個

とできるので、
 ・ $F(5) \times (27 - F(1)) / F(2) \times (27 + F(4))$
 18個使用まで減らせました。

その後の試行錯誤で筆者は14個使用まで減らせました。ご参考までに本稿末尾にわかりにくい表現で掲載しておきますが、これが最適解とは思えません。

さて、皆さんならいかがでしょうか。

ちなみに、2015で27を作る方はあまり考えていませんが、とりあえず12個でできます。2015をn個足して2015で割ったものをG(n)とすれば、

・ $G(3) \times G(3) \times G(3) = 27$
 巾乗表現が許されるのであれば、8個でもOK。
 ・ $G(3)^4 = 27$

いずれにしても2015の特徴を使ってないので少しも面白くありません。

14個使用解

・ 左括弧二十七引く左括弧二十七足す二十七右括弧割る二十七右括弧掛ける左括弧二十七足す二十七足す二十七引く左括弧二十七足す二十七右括弧割る左括弧二十七足す二十七足す二十七足す二十七足す二十七右括弧右括弧



佐藤達也さんからのメール

かつて安南詰の作品をよく発表されていた佐藤達也さんからメールを頂きました。七郎さんが紹介された事が縁となりおせっかくですのでここでご紹介します。

佐藤達也

突然のメールで失礼します。安南詰を作っている(いた)佐藤達也と申します。最近ネットも詰も全然で今さらなのですが、WFP72号で自作が紹介されているのを拝見しました。

まだパラ会員でなかった頃、作っても発表する場を知らず悶々としていた時、近将1980年1月号に新しい読者コーナーができる告知があり、募集要項の中に安南詰の記述があったので勇んで投稿したら即採用されました。処女作で嬉しくて嬉しくてたまらなかった三十数年前の記憶を呼び起こさせて頂きました。大変ありがとうございました。

(実は次号3月号にも自作が掲載されたのですが、浮かれすぎたのか住所、氏名を書き忘れて名なしに・・)

余詰は発表後、自分でも気付きました、玉方41歩を銀にして修正しました。

(これで直っているのか否か分かりません)成生非限定は協力詰でなければ気にしておらず、いまだに時代に付いていません。せっかくのご指摘ですので併せて31飛を龍に修正させていただきます。神無七郎さんにメールすべき所ですが、アドレスを存じておらずメールさせて頂きました。

須川さんとは大分経ちますが、その後の全国大会の引き金になった名古屋開催の大会でお会いさせて頂いた記憶があります。(もう二十年以上前でしょうか。三郎さんや六郎さんとも)

須川さんが広島在住の頃で広島県の名札を見られて、福山の私に2、3言だけ話しかけて頂きました。

私が寡黙でコミュニケーション能力不足の人間なので失礼があったかもしれません。

今なお精力的な活動、編集発行に敬意を表させて頂くとともに、お礼まで。

☆名古屋の大会でお会いした記憶がほとんど残っていないですねえ。(申し訳なし)さすがに年をとりました。佐藤さんには是非また安南詰を見せて欲しいと思います。

ちょっと早い 2015 年 年賀詰作品展

年末年始に解いてもらおうと企画している本作品展。今回3題集まりました。1番神無太郎さんの作品は初手が27への駒打ちですので年賀詰(H27年)という事です。2番私の作品は相変わらずの強欲詰。手数は長いですが、序はすらすら進むはずですが、後半結構ぎりぎりの手順ですのでしっかり考えてみてください。3番神無七郎さんの作品は、そのまま年賀状で出題します。作者が作者だけに簡単ではない(?)かも。

【ルール説明】

【協力(ばか)詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Isardam】

同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプA)

【強欲】

駒を取る手を優先して選ぶ。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方の玉をスタイルメイト(王手は掛かっているが合法手のない状態)にする。

第1番

神無太郎作 Isardam ばか詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						王			四
								王	五
									六
						香			七
									八
									九

持駒 桂

第2番

たくぼん作 強欲協力詰 37手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				料					二
			歩	と	糸				三
				と					四
		銀	桂	入	香	香			五
				馬					六
				香	糸	歩			七
		王		馬		金			八
				王					九

持駒 なし

第3番

協力自玉スタイルメイト 32手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				香	王	香			二
				歩	馬	歩			三
				香	王	香			四
				香	歩	香			五
				龍	馬	龍			六
									七
									八
									九

持駒 金2 桂4



(解答先)
→たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2015年1月16日(日)

2015年賀詰作品展
フェアリー作品 3題

2015年1月20日(金)

第85回推理将棋出題
推理将棋 4題

2015年2月15日(日)

第67回WFP作品展
フェアリー作品 9題+2題
推理将棋 1題

作品募集一覧

フェアリー版くるくる展示室

- ・ 盤は9×9、駒は普通の将棋駒及び駒数内（フェアリー駒はとりあえず不可）
- ・ 後手持駒制限 OK
- ・ ルールは何でも OK（協力詰、かしこ詰、打歩詰、自玉詰系、ステイルメイトなど何でも OK）
- ・ 手数制限なし

投稿先は、WFP 編集部
たくぼん takuji@dokidoki.ne.jp

Fairy of the Forest #42 課題発表

- 2014年11月20日：課題発表：（協力詰）
角または銀が活躍する作品
- 2015年01月15日：投稿締切
- 2015年01月20日：出題
- 2015年02月15日：解答締切
- 2015年02月20日：結果発表

■ 課題発表

この1年、「AまたはBが活躍する」という駒シリーズで通してきました。馬 or 桂馬、飛 or 香、金 or と金、と来て、今回の角 or 銀でとりあえず最後にします。龍と王(攻方)については、いずれまた……。

多くの方々のご投稿をお待ちしています。

（投稿先）
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

【あとがき】

あっという間に1年が終わりました。12月は師走とも言いますが、私も西へ東へ（県内ですが）走り回ってとても忙しい。時間を見ては解図や編集作業など手をつけていますが、時間がいくらあっても足りません。ちょーえりは今週初めより大風邪を引いて寝込み状態。実家の父は再び入院の連絡あり。詰パラの氾濫はまだほとんど手付かずの状態です。来年というよりはまだ今年が見えない状態とはこれまたねえ。

愚痴ばかりこぼしてますが、今年も何とかWFP発行だけは順調に出来たのが唯一の自慢。どれだけの方がご覧頂いているのかは分かりませんが、体の続く限りは頑張っていきたいと思えます。

来年もWFPをよろしく願いいたします。またたくさんの解答を頂けるようになりますようにと祈りつつ……よいお年を～～～

たくぼん

2014年 第78号

Web Fairy Paradise

非売品
平成二十六年十二月号
平成二十六年十二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市
発行兼編集人 須川卓二
発行所 Web Fairy Paradise 編集部
問合せ takuji@dokidoki.ne.jp